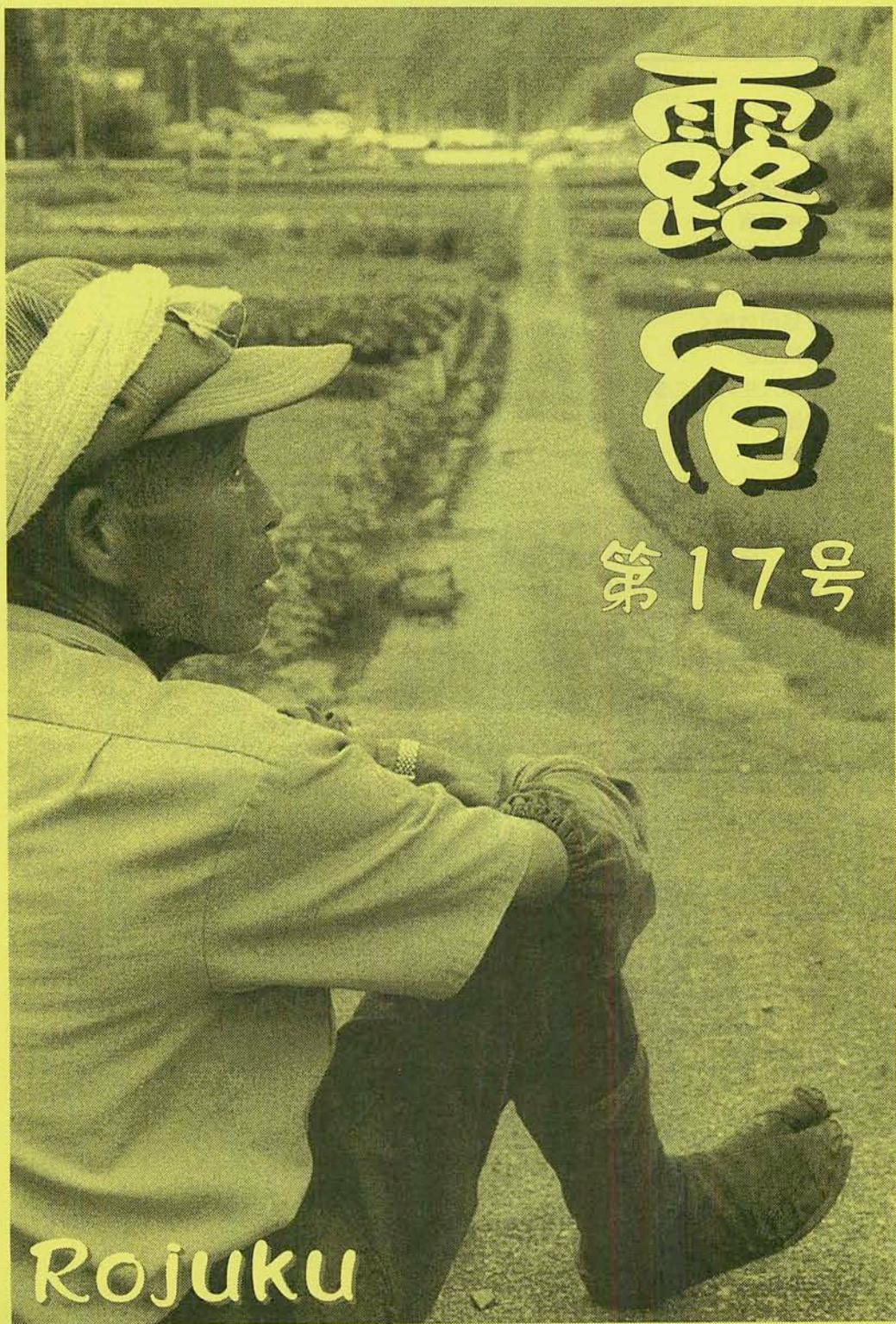


路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2002年3月1日発行



定価 500円

露宿

目次

表紙写真	松澤コウノスケ
文中写真	岡田 知子
春の鼓動	富士森 和行 2
路上いろは歌留多	風来坊 3
千鳥何故啼く	弓削鴻介 4
病院日記	小一 5
我が人生の一こま	田代 猛 9
無題	48才主婦 10
無題	橋 安純
ぼけない五カ条 他	名無しの権兵衛の皆さん 11
都市の公園でのお話	秋戸 空 13
空爆、空爆、空爆、****破壊	15
支えられたり支えたり	平之家暁星
立原えりか氏の思い出など	矢田道夫 16
朝太郎の箱船	鈴木 克彦 17
五行詩	近松雅之 20
天皇家の 秘 出自に関して②	AS・デービッド 21
崇徳上皇・御靈示歌	22
新編・マンモス交番	望月 大成 23
御岳山話したっけ聞いたっけ	只野 酔払 25
挿絵	タートル
とどのつまりは水道町！	高橋 美香 29
東京路上ふらり散歩	笠井和明 30
	岡田知子
おきなわ旅日記～馬～	恩田美代子 35
はり師いが丸の肝心かなめ	はり師いが丸 37
編集後記	38

— 春の鼓動 — 十五首 富士森和行

執行猶予停止せること重荷負ふ懺悔の記録となりて世に問ふ

受刑者の若き独りのやくざすら神の救ひの託言をせり

(淀橋教会、ゴスペル大会にて)

その昔の服役の友訪ねたる府中の町の春は変らじ
幾度か路上に春を迎ふれど誠の春の尚遠く見ゆ

さまよいし頃より久し白梅の香を慕ひつゝ湯島に來たり
寒牡丹菰を被りて咲き出でぬ雪より白きその純白よ

(上野東照宮境内にて)

岸壁のテトラポットの隙間にも路上のものらの住む家が立つ
春立つ日切なく思ふわが余生路頭に今も迷ひつゝおり
如月の寒さに耐ゆる底辺に時に穏(しづ)かく光のもえたちぬ

つやゝかに耀る木肌に命溜めさくら咲く日の鼓動きこゆる

あとがきより独り読む夜の自叙伝に既に亡びし吾が世を知りぬ
いみじくも与へられたる来し方を綴りて永き昭和は逝けり

駅伝を見れば想ひ出新なり施設に近き国道に手を降る

(1・2、鈴ヶ森より平和島付近)

施設の寮のテレビに見守りし箱根駅伝わがホームレスの眼に
戦争もテロも貧富もあらざらむ男の統べてスポーツにみゆ

(二〇〇二、一・三 自宅にて)



路上いろは歌留多

風来坊

いつの日か知らず知らずに ホームレス
ろしゆく読み我れも一句と 筆を取り
はる近し鴉も餌をあせるなり
にぎり飯 一つを仲間と 分ち合ひ
ほんのりと 句が残る ハンバーガー¹
へたながら 縴る文書に筆走る
としあけて 清酒一杯 舌づつみ
ちち母を 思い出させる 月見草
りんとして 生甲斐見つけ 茨みち
ぬれ乍ら 我が身にしみる 冬の雨
るてん旅 汚れ汚れて 身を攻める
おおみそか カラオケ済んで 紅白を
わたる世に 我れままならず 露の下
かかえ込む ダンボール箱 雨に濡れ
よもすがら 歩き疲かれて ビルの隅
たそがれに 鳩が舞い散る
ボケットパーク
れんらくかい 支援者達の 思いや
それぞれに 思いは同じ 里の春
つ、がなく 孤独に耐える 彼岸花

ねこさえも 僕を見る目が 憎らしい
なきともと 共に踊りし 夏祭り
らんざくに 語りし我は 孤独かな
むかし、今 変らぬ誓ひ 胸に秘め
うつうつと 星をみつめて 夜もすがら
のじゅくする 僕には俺の 誇りあり
くじあたり 笑顔漂よう 大田寮
やね仕事 寄こせと叫び 国会え
まあいいさ 今日は無くとも 明日がある
けふも 炊出し 年の暮れ

ふろさえも 入いれず我の 身のかゆさ
こん性は 我が唯一の こゝろ系
えき取りも 楽じやない 賞味切れ
てを握り励ます仲間 笑顔見ゆ
あゝ悲し 埼はいつも 駅の床
さまよひて 仲間と歩き 餌さがし
きょうもまた カンパン一つ 哀れさや
ゆめ叶え どんな辛さも 耐え忍ぶ
めーでーの クライマックス 都庁前
みえて来た 遠い道のり 生保かな

後記

露宿出版編集者並びに閲読者の方々 紙上にてあけましておめでとう
今年も良い作品を。私も未熟ながら頑張りますので。
露宿を読むにつれて発行日が待ち遠しい位です。今後共よろしくお願ひ申し上げます!!

二〇〇二年 一月二十五日

しんじゅくに 着きし宛なし 金もなし
ひるさがり 友が語りし 半生記
せまくても 心は広し 紙の家
すき好み 誰のが野宿を 宿命か

千鳥何故啼く

(一)

千鳥何故啼く、出船の時に、
啼けば別れが、辛くなる、
好きで添えない、未練の波止場、
異人さんに、連れられて、行つちやた、
鶴松お吉の、泣き別れ。

(二)

下田港は、小雨にけむる、
恋の名残の、小糠雨、
雨は降る降る、日は薄曇る、
街道見下ろす、天城山、
お吉涙の聲がする。

(三)

伊豆の七島、通いの船は、
岬回つて、もう見えぬ、
今もこの地に、お吉の顔が、
消えでは浮かんで、月おぼろ、
美人芸者の、深情。

♪♪

遠い昔の、物語、
憎つくさ、黒船、黒煙、
異人さんに、連れられて、
行つちやつたあー。

♪♪合唱

昔々の、物語、
憎つくさ、黒船、黒煙、
異人さんに、連れられて、
行つちやつたあー。

♪♪
今もこの地の語り草、
憎つくさ、黒船、黒煙、
異人さんに、連れられて、
行つちやつたあー。

弓削鴻介

病院日記 小一

持取りもどした用な気分になつた 生きると
はつらいが負けずに行けば楽しい物だ だから
なんだ落ちてもくじけづに自分を見つめて過去
はする事が 一番大事なこと氣づけば馬鹿に
も利口にもなる事

千円仕引き出した

幸福とは自分でつくる事にある

花火と人生
たつた数秒の四季もある 六十年も前の消えない
今もある 心の中では時間は流れない 今は生き
母はいつも若く笑いまたおこりもし子供のまま愛
を積み重ねていく 俺は生きるとは心の中に
こそあると信じ生きるよろこびを大切に自分の中
にします

朝もやも 心静ずかに 晴れお待つ

アル中と精神障害者
俺は平成十二年九月十四日八王子の高月病院に
入院した俺の病名はアルコル中毒者として入院
し三月もすれば出られると思つたところが明けて
十三年になつてもなんの返事がない 俺が居た
部屋はかいほう部屋で はけのはからい者が多
かつた 泣いたかと思ふと笑ふ いきなり人につ
かりもして気が安まる事はなかつた 思いき
つて八月三日に逃げ出し新宿区役所に来た 役所
は相手にしない都庁の大森さんに電話してもむだ
と思い区役所に行く事にした

一三年八月二十七日 東十条の神谷病院に入院

第一夜とても清潔で患者さんも皆おとなしい人
俺もかんばる事にした やつと人間らしい気

役所せみ なかずとばずで 永眠か
うらめしや てんできうつて めしくはず

醉して眼ざめて見れば 無一文
八月三十一日
朝おきて見れば 小雨煙るはださむさ

俺は生れは城東区大島五丁目六二番地で生ま
れた 昭和八年一月十八になつて居るが本当
は間違いだ 俺は昭和八年十二月二十三日に
生れたが天子と同じだと城東区役所が俺をお早
めにし一月十八日にした 俺は人が出来な
い事も体けんした七才に成り大島第一小学校に
入り六年間すごした

五年の時に集団疎開に山形県最上郡赤倉に着い
た 温泉旅館で大黒屋と言つた所で一年暮らし
た 東京は毎日空しゆで大変だろう二〇年に成
り三月九日にかかる事になつたが 軍のしれい
で三月三日にかかる事になり三月四日に上野に
着きその日から空しゆに合つた

小名木川はさんで砂町亀高小学校にばくだんが
落ちたそれからは毎日の用にやられた 今でも
三月九日は忘れる事は出来ない ガソリン散
いて しよい弾とは忘れられない 俺は運良
く逃げたが友達は二〇人ほど死んだ 今の若い
者たちにその苦しみはわかる前

八月二十八日
眼がさめてびっくり いつの間に病院に入つた
おもいうかばない しばらく考えてから想い出
す 俺は高月に居たので頭がおかしくなつ
たのかと思つた やそうではないたしか
に しか二十七日新宿区役所に行って田代先生と神
谷病院に来た事に気づいた そつだ二度とくり
かへしたくない この日の事わ 生きてるかぎ
りわすれられない事だと思つた 田代先生には
どれだけ世話になつたか自分ではづかしる

しやはせわ だまつていては にげてゆく

入院時担当の田代先生から借金三阡円

まねまき一 石けん一 箱一 タオル一
煙草十四個 スリッパ一 病院コップ一
ハシー

フルコドヌリクスリ一ヶ

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

今日頑張て行く事にする

今日はおもしろい物お見たそれはダルマさんだなぜ病院にかざつてあるか俺は考んがへたよくよく考がへたらどうやら俺の考へと同じ事じゃないかと思つたこのダルマさん

わ患者はげますマスコットと思つたダルマの手足なくともころべおきる手足あつてもおきられぬ者も居る意地見榮張りこんな物は居らない患者一人一人が早やく良くなり一日も早く退院する事に精進すればどれだけ良い事か

勇気根性忍耐さえあればだれにも負けぬ頑張ていこう

九月五日（木）

神谷病院で十日になつた俺は今日外来棟にて新聞を見て居たらヘルパーに注意された患者は新聞もよめないのかときいたそれなら新病院と役所は世間の事は知る所じや無用な所と俺は思つた

三月になる迄でなにもいはずにすこすだけだ

人生を小石につまづく馬もある

九月六日（金）
今日わ身体も足もかるいので体操してみたとても良く動けた

これからわ朝に毎日体操する事にした

くもり氣も晴れずに本およむ
くじけづに忍耐と意地で頑張ていこう

今日も雨ベッドで本をよむ
いやな所だと思った新しい者はそちのけ古い者がのきばるところだ買物もヘルパも新しい者には声かけないでやる所だ一つとび出しててくれるからという考へはする事だ良くなつて一日も早やく退院する用に頑張らなければ良くなつてみようと思つたけど足がゆう事きかないもうすこし先になたら俺は王子支部と連絡とりやるつもりで居ます

九月七日（土）腹立

九月七日（土）腹立

午後二時三十分頃ナースに行つた

買物の相談に行つたらただ飯くつて間食とはなんだと云われたので俺は腹が立つて馬鹿者と言つておやつおくれとは言てない自分で金お出して買って貰はれると想つたら急にさびしくなつた月曜になつたら役所でわからないなら都庁の中島さ

んに電話する事にする唯俺は人の気持もわからぬ者が人の面倒が出来る事かと思つたからここに書くだけでなく世間にきくだけだだから役所

人生おなんどころんでおきるだるまかな

腹おきめるつもりで居る俺にわ出来ない二度ないよお俺はたたかう事にするもう俺の電話でおよその事はわかつたろう早くろじゅくにのせて皆んな仲間に

九月十二日（水）

今朝八時三十分に新宿区役所に電話し田代先生と話し九月から担当がかわた田代先生から湯浅先生となつた女の先生だからと云つて俺の気持はかわらずに今までよりも自分お見つめて生きる事にすれば湯浅先生役所の方も苦勞もしなくなる用に頑張りますのでよろしくおねがいします

馬鹿な男もあとわない頑張て生きれば花も咲く一年一年待つ事によつて自分がのびてわかるねば俺は連絡会の笠井さんに相談して

五阡円借り 仕き出し

九月十六日 (日)

今日は当地の祭礼だ 今日は何にか良い事がありそうな気がする 祭礼でも自由がきかねばならないが見るだけでも楽しい気持になる

今日は朝から雨が降っている
十時頃に雨が上り 気も晴れた
今日は何にかついているような気がしてたら午後七時頃事務所によばれ役所から生活費が来た事お知らされ 四万四阡円ぐらいだとききうれしかった 僕れは五阡でいいですと事とわり五阡円を一月もたすつもりで頑張る だが一ヶ月に一度は新宿へ行きたい 僕れの仲間が次々と消えて行くのがさびしい 僕れもその内消え

るのだからと思うと生きる楽しみがなくなるがこれからとおもつて生きればなんのくろうもない 頑張れば生きて良かつたなと思う日がくるきっと来る それおたのしみに生きよお

赤提灯 おいでおいでと
紅葉かうんざりするぜ
赤い顔

朝も やも 心静かに
はれお待つ

寒い朝 つばきほころぶ
朝を待つ

寒鶴す 荒れた庭木に
柿一つ

かんがへる 人生わ くぢけずあるけば
花が咲く
やけくそとも網も 切れて流れで
船先なんば船

九月十七日 (月)

呼んだとて るす番電話 知らん顔

今日は朝から晴れた日だ
氣分もなごむ朝が来た

九月十九日 (水)

何事もなく 無事に暮らす

九月二十日 (木)

今日雨 いやになる だが頑張らなくては だれも面倒見てくれない 自分の事は自分でやる事だ一走 一走先に行けばしぜんと先きが見えてくる今日は買物 テュシュ一箱事務所から買った かりになつたがこれで良くなれば安い物だ

今日は朝から晴れた日だ
病院でいばる馬鹿女も今日静だ 患者はこじきと見て取れた 入院して居るのは台東区上野三谷の住人だから僕れはむかつくがどにもならぬない だが僕れがとび出で活動すればと思つたが 後にのこつた患者の事お想ふと出来ないがいつかわきつとつぶして見せる時お信じ頑張るだけだ 今日一日無事にすごした事は皆様方のおかげです

今日月曜日は風呂 ふとんかば パヂヤマ替の日です 僕れはヘルパーに自分で身体は洗えるといつただけだ したらふとんかばも替えずパヂヤマも替えずだ これはどうゆうわけか聞きにもならないが見るだけでも楽しい気持になるだろお 後は見てから書くことにする

朝自分で身体はふるて居るから よごれはしないが よくしらべて下さい
朝自分では世話になつて居るのだからしかたがないが これは間違がつているのではないか 僕れは毎朝からならないから 担当に聞く事にするたしかヘルバの名は丸山とかいったようだ 患者は世話になつて居るのだからしかたがないが これは間違がつているのではないか 僕れは毎朝自分で身体はふるて居るから よごれはしないが よくしらべて下さい
今日は当地の祭礼だ 今日は何にか良い事がありそうな気がする 祭礼でも自由がきかねばならないが見るだけでも楽しい気持になる
今日は朝から雨が降っている
十時頃に雨が上り 気も晴れた
今日は何にかついているような気がしてたら午後七時頃事務所によばれ役所から生活費が来た事お知らされ 四万四阡円ぐらいだとききうれしかった 僕れは五阡でいいですと事とわり五阡円を一月もたすつもりで頑張る だが一ヶ月に一度は新宿へ行きたい 僕れの仲間が次々と消えて行くのがさびしい 僕れもその内消え

るのだからと思うと生きる楽しみがなくなるがこれからとおもつて生きればなんのくろうもない 頑張れば生きて良かつたなと思う日がくるきっと来る それおたのしみに生きよお

赤提灯 おいでおいでと
紅葉かうんざりするぜ
赤い顔

朝も やも 心静かに
はれお待つ

寒い朝 つばきほころぶ
朝を待つ

寒鶴す 荒れた庭木に
柿一つ

かんがへる 人生わ くぢけずあるけば
花が咲く
やけくそとも網も 切れて流れで
船先なんば船

九月十七日 (月)

呼んだとて るす番電話 知らん顔

今日は朝から晴れた日だ
氣分もなごむ朝が来た

九月十九日 (水)

何事もなく 無事に暮らす

九月二十日 (木)

今日雨 いやになる だが頑張らなくては だれも面倒見てくれない 自分の事は自分でやる事だ一走 一走先に行けばしぜんと先きが見えてくる今日は買物 テュシュ一箱事務所から買った かりになつたがこれで良くなれば安い物だ

今日は朝から晴れた日だ
病院での生活はだれを信じれば良いのかわからなくなる ヘルパーは皆な同じよな者ばかりこれじや患者もいやきさし悪くなるだろな馬鹿者ばかりのヘルパーを早やく為にしなけりやいけないと僕れは思つて居る やる事する事皆だけだ 今日一日無事にすごした事は皆様方の事だよ ヘルバよく考へて口にしろ 一患者のおかげです

意見だよ

らんけど俺はとことんさらけ出してやる事に
する

秋田小町 すゞめ むらがる

小雀かな

秋ともなれば食の秋だよ

ふとももやせるも自分勝手だよ

病院とは福祉が入いる所じゃないよ 気おつけ

て入った方が利口だよ

九月二十一日（金）

今日も雨 ゆううつだ

今日今後の事についてナスーに行つた 俺は

福祉だからナスーに用はないとのわれた 病院

とは福祉が入いる所ではないのか それをわか

つて居ながら入れるとはおかしいではないか
都でやつて居た事は出たらめだ 石原で良くなる
かと思つたら悪くなる一方だ 青島さんの時は
こんな事はなかつた 役所に行けば知らん顔
電話すれば今日わいない どち道捨猫同然だ
俺れだつて税金をはらつて生きて来た人間だ
昔からのホームレスぢやないよ馬鹿にするのも
いいかげんにしろ

九月二十六日

今夕部長より七阡円引き出す 前回合わし一万

八阡円となりました

十月九日（火）

世はくづれし 千代がみかなし

今日ナスーに相談に行つたら福祉の者は関係ないと言われた 担当の福祉の先生と相談しろと婦長に云われた 相談したくも電話では出来ない事はわかつて居るのになぜ云ふのかがわからぬ 自分たちの言う事だけで通すつもりかし

十月十二日（金）
役所に行つた 1万六百円貰つて買物した 時
計三阡円 小銭入れ一阡 食事代一阡円
煙草三阡円

十月十八日（木）

今日も雨に降られて本およむ

二日つきの雨に降られて気がゆれる

どこも出られず

十月十日

村山老人ホームに面せつに行つた 自分の云ふ事は自分でやる事 俺は自分自身を有りのまゝ云つただけで有り間違つた事は云つてない
だが自分自身をうそはつけないから云つたまで
だ 三月しんぼうすればと想つたがそれも違う
だろうと思ひこしにつける うそはいつかはばれる だから有りのまゝに云つただけだ 自分自身をいつはる事は出来ない

雨降れば 地かたまりて
千代がみ果てし
世はくづれし 千代がみかなし

かぶき町
ネオンでさそう
鬼の群

鬼笑ふ
豆にかせいで
豆おまく

我が人生の一こま

田代 猛

一、今日、今年最後の戸山国際医療センターに行く。今年もいろいろな治療を受けた。再入院もあった。木村先生、田中先生、藤原先生、吉永先生、有り難う。私は有り難うで始まり、有り難うで終るそんな人間になりたい。そんな心の思いを記す

二〇〇一年一二月二十八日

一、何ヶ月振りにM君が訪ねて来る。疲れてる見たい。私の血圧計で測る180—120高い。心配になり薬を與える。でもそれなりに頑張って生きてゐることを心に感じる。彼は六年前かなあ現地下道、歩く歩道、二号街路の路上で生活を共にした仲間であり、友人でもある。そして彼は新宿公園—自立センター—今年一二月アパートを借り再出発した。心から祝福する。多難な厳しい現実に負けないで身体に留意して生活されん事をと心から願ふ

一二月三十日一七時記す

一、朝日新聞、國際面四頁に連載されてゐる、今日で二六回目「テロリストの軌跡アタを追ふ」、一回目から克明に讀む。アタは教養があり人当たりがよく、感じのいい普通の人間性豊かな青年でした。彼を知る友人、多くの人々はそう語る。そのアタがテロリストとしてニューヨークの高層ビルに一機目の自爆テロとして自らの命を断つたのだろうか。私は人間としてその軌跡を知りたかった。そして現代の日本の社会に眼を心をとらえたいと思ふ。何れ终回がその時に私なりの軌跡をとらえよう。

二〇〇二年一月四日記す

一、NHK アーカイブス SP「松本清張」ドラマを見る二三時一〇分〇時三五分。解説者「作家・森本誠一」。最後に解説者森本誠一さんの言葉

が印象的で私の心を打つ。森本さんは雨の日に喫茶店でふと窓外に眼を向けて見ると見しらぬ人が通つてゐる。私はふとその人になりたいと思ふ。現在の自分を捨てて、その人が今、不幸か幸福か知らない解らない、でもふとそんな気持になる。人間は一回二生の歩も人生の心があるのだと。

二〇〇二年一月五日〇時五〇分記す

一、私はこの頃しみじみ思ふ。「時間」で「時間」で、もどらないものかな、と、もどらないものかなと。

一、朝一〇時サオタケ屋さんが「サオタケ、サオタケ」と叫んでゐる。そうだサオタケみたいに雨の日も風の日も又暑い日光の直射の日も、人に一番必要なものを大事に育ててゐる、サオタケ、サオタケの声を聞きながら、そんな事を思ふ。又ニュースが永田町の各政党の仕事始めを伝える。政治家さんよ、自らを律し国民の為の国民の政治を反映させよと願ふ。^{はな。} 傍い夢かな。

二〇〇二年一月七日記す

「私の心に嗜みしめる言葉、寫る言葉」

政治

一、一人の勝者の背後には幾千万の敗者がいることを世界は忘れてはならない。

一、日本の資本主義は二つの側面を持つ。一つは身内の資本主義的な遅れ

一、努力しても、努力しても報はれない社会、それは究極は貧困につながる。そして死につながる。そんな社会が二十一世紀の今日も續いてゐる。

一、やせ蛙なまけのな一茶是にあり。

一、弱者はやせ蛙であつても権力と云ふ巨大なものに対抗して、運動を續けた。その姿勢が人々の一人ひとりの支持を得られる。

一、一頭のライオンに率いられた百頭の羊の群れは、一頭の羊に率いられた百頭のライオンの群れに勝つ。

人生

一、「受身」

柔道の基本は受身、受身とはころぶ練習、まける練習、人の前にぶざまに恥をさらす稽古。受身が身につければ達人。まることの尊さがわかるから。

二、「人生的」

ふたつあつたらまようよ
ひとつならまよいようがない

人生的はひとつがいい。

三、「じぶん」

背のびするじぶん、卑下するじぶん、
どつちもいやだけど、どつちもじぶん、
そんなじぶんをどうしよう。

四、「金ではなく鉄として生きよう。

平成十四年一月十二日

怒り

新宿公園で、路上生活者の五十代の人が重傷との事、爆弾によるものと云う。それも木箱に入れた品物と云う。一人の弱い人間が極限状態で生きることに、開けて生きてゐる人々に何か人の心を騙すような、木箱でそれも立派に包装されてゐてあたかも何か良い品物みたいだと云う。そして人を死に至らせる行為。断じて許せるものではない。許せない。私も過去に路上生活を体験した一人の人間として極限状態での生活の事を思ふとき、その五十代の人の心が行動が解る。一般の人々は路上にあるものの、クヅカゴにあるものと考るが、でも解り過ぎるほど解る。その人の心が。私は心から願ひ、祈る。「生きて下さい」と「生きて下さい」と。そして、その卑劣な行為に対して天誅を與えたい。與えたい。加えたい。加えたい。法國家で刑法があり、刑事訴訟法があり、殺人罪があり、殺人未遂罪がある事は百も承知だ。だが、だが、天誅を加えたい。アア、何んと云う現実の社会だ。どうしようもない、たまらない、この心の悲しみと憤りを、誰かに伝えたい、記したい。

一月二十一日記す

二〇〇二年一月四日



知らぬ間に
一人にされ道端野宿

凍死者か

寒さあり うかれやすに年が明け

仕事なく難踏あるき年始しる

初もうで人波のなか腹へつて

冷えこんで枕馬車の音

うさ子(中1)め、貧乏人といわれてからかわれ厄と
開いて驚いた。娘子も全く武田じいがが、私が
子供時代は左利約多数か貧乏人なんぞ、金持を
いじめたりたりもつたが、……でも、今は金持も少しだけ
本/貧乏人もいるよう、家賃が高くて、食へてもうか
買えない、野菜も安なし、100円ミコツフで、第3毛のカド
何でも買える。家賃を支ければ、生きていくことに、
戦後の日本はどう食べるかがかかる
ハフルか崩壊したんだから、戦後は返りはるん
じゃが、戦後は何もかも焼け、仕事も何も
それから作り出せなくなりけりが、いたんだよ。
でもうれいはずだ。今、借屋を大層や...
政治屋と不動産やさん。
48才立候。

ええ年守になりなはれ

ぼけたらあかん長生きしなはれ 泣きごとに人の
陰口ぐら言わす他人のととはほめなはれ いつて
もアホで居りなはれ 若い者には在もたせ 一步さ
がであることだ いざれお世話になる身なら
いつも感謝を忘れず どんな時でもへえがあさく
お金の欲は捨てなはれ 生きてるうちにばらまいて
山ほど穀を積みなはれ 昔のことは忘れなはれ 自
慢はなしに わしゃの時は鼻もちらぬ言葉
わが子に孫に世間さま どなたからでも慕われる
ええ年守りになりなはれ ボケたらあかん そのた
めに何か一つの趣味もつて せいぜい長生きしな
はれや

- 一、仲間がいて気持の若い人
- 二、人の世話をよくし感謝のできる人
- 三、ものをよく読みよく書く人
- 四、よく笑い感動を忘れない人
- 五、趣味の楽しみをもち旅の好きな人

ぼけない五ヵ条

昭和10年秋
神谷 美恵子（詩人）が好きなことは
「与えることは偉大だが、受けける気持はさらに偉大である」

ふゆのさむは
あなたの心までにしじごこんで
ひとの事をつぶやいているみたい
死ねばいいと信じて
あなたの手をひきと
このつめたい風のいじめのようがを
その心からあい出せないんだるう
その青い手をひばって立ち上らせようと
ひっしな気持ち。
私はともかくからとまと舞ってしまう。

102.1.20

俺たちの空は明るいけど、俺の空は暗い夜
冷たい風が吹く、冷たい雨がふる、キセツに
ツエニー ツエニー おまえはどこに行く

ああ、哀しい空 哀しい空
いや 楽しい空 楽しい空
かわの空カビニーーー
かわの空カビニーーー

心と見ゆば、ミツヒシと矢の白玉
捨、集めて、素手に滴血。

凍る脚、シャベルへと振り、朱鷺の声
銀河(銀河)天下の朝に露

2002.1.20

昨日、新宿公園で、爆弾が炸裂。
仲間の人たちとほれ合った。差別的?
感情か、犯人に、何よりは行為を行なうべき?
「さあ」「いやよ」「あかいわ」「……？」
悲しい知らせだ。 M



102.1.6

正常と異常か かたりあう 街、新宿
私には、わかるぬ、不思議な希望か そこには
あるようぬ気がする、第なし



人間にみちてきた空、ほの地きゅう
ほうふにみちて、空、ほの人間
うそにみちている空、ほのほう、
教え込まれたうそから
目が見えないよう、信じづけるうそがら
ぐくのうそがら
かいほうへの道が見つけたい
病みにみちている空、ほのうそがない
世界に連れて下さ。
レイナ

神様といふ宿命

01.12.30

産むは個人々違~~う~~
たとえば、わかりやすく、数字で書くみよ、
俺の生たるの答えるが、①だとすると
相手が②だとすると、で問題は
2-1=で答えるか、③相手か
1+1=で答えるか、④⑤は
はどうしても違う宿命にて、では
宿命といふとどうにもねじゆ。

都市の公園でのお話

(トウニン・チシ) の生涯

1991年夏 8月頃

秋戸空

夏の朝がやつて来ました。まだこの都市の公園でも陽の出る前の空気は、シーンとしていてまだいくらかは清らかな朝です。早起きの、トゥニン・チシは、その朝の臭いをむね一杯に吸い込みました。それはお陽様と草のにおいが、少しでもしていたからです。

チシは草のあいだから頭をチヨイと、持ち上げて街の上をみやりました。ひとすじの光が街の家々の屋根の上を、サーッと走りました。「コケコッコッ」どこかで一番ドリが、哭きました。チシはピックリして、思わず頭をひっこめてしましました。そしてそばにいるお父さんに、「あの声はいったいなんなのですか」と聞きました。お父さんはこう答えました。「チシやあればね、二ワトリといつてね、とてもおそろしくちばしを持つてゐるんだよ、誰かがあのくちばしにつつかれて

……少し考えこみ「小さな虫たちをこのんで喰べるんだよ」そこでチシはこう言いました。「じゃあとでもこわいんだね、ボク喰べられてしまうのかなあ」「なあにアイツに見つかなければだいじょうぶだよ」

そうは言つてもお父さんは、もう一つの心配ごとをチシに言いました。「わしは、心配なことがもう一つあるんだよ……」チシはちょっとと考えてまた言いました。「どんなことですかお父さん」「君は今日が初めてのぼうけんなんだ、だからとても心配なんだよ」お父さんは、そういいました。チシは首をかしげて聞いていましたが、元気よく答えました。「うん!ボクなんだかわくわくするよ」

「いいかいチシ……あの目の前の道をよこざるとときは、よほど氣をつけるんだよ」お父さんは、今までに何回も見たことを想いだし、とても心配なのでした。お父さんは、それまでに何回も命びろいをしていましたしどう。「ああ、やはり私は心配だな！」

チシはもう一度ききかえしました。「どうしたのお父さん、どうしてそんなに心配するの」チシはふしぎでお父さんがそんなに心配するのか分けがわかりませんでした。やはりお父さんは、とてもおびえているようでした。

そこでチシは、せい一ぱい元気な声でいったのです。「お父さんボク、ニワトリにはきおつけるよ」トンチンカンな考え方をしたチシを見てお父さんは、ア然としてかなしいやら、おかしいやら、にがわらいをしました。

それでもお父さんは、心配そうにチシを見や

りました。そして「やっぱりチシ行くのかい？」チシは小さくなづきました。そして元気よく言いました。

「それではお父さん、行ってきます」

朝の陽はもうだいぶ高くまで、光をなげかけていたのでした。そこでチシはもう一度朝のにおいをむね一ぱいに吸いこみました。そしてチシは草のあいだからそろそろと、はい出しました。おとうさんは心の中でさけびました「氣をつけていくんだよ」そして……「さあ！」チシのぼうけんの出発です。「チシや氣をつけて行くんだよ」お父さんはそういました。チシはうしろをふりかえり、「うん、ではお父さんボク氣おつけていつてくるよ」

はい出して見るともうおおぜいの仲間たちは朝のぼうけんと出ぱつをしていました。このぼうけんはチシにとっては初めてのけいけんでした。土の上を歩くのもはじめてでした。土のかんしょくのなんとひんやりとして、とてもも氣ぶんのよいつめたさで。全身がやさしくつつみこまれるようでした。チシは土のかんしょくを楽しむように、ゆっくりと歩んでゆきました。

そしてとつぜん、新らしい仲間にであります。「ヤア、ボクはニシシヌク、君はきょう初めてかい」きゅうに声をかけられてチシはビックリしました。「エップアッ……ボ……ボクトウニンチシ、初めてだけど君も今日はじめてかい」「んううん……ボクは二回目さ」「ボクは初めて

さ、よろしくニシシヌク」「ア、ア……よろしくトウニンチシ」

ところでそのころチシのお父さんは、まだチシの行つた方をながめていたのでした。お父さんの心配は、これからチシがよこぎらなくてはならないあの白くてかわいたかたい道です。あそは、土や草むらとはちがつて、お陽様にてらされて、もうとてもあつくなつてゐるでしょう。だからあの道をわたるだけでも、それはとてもよいなことではあります。そう想いながらお父さんも、そろそろ自分の出ばつの、じゅんびをしていました。友だちになつたばかりの二人ニシシヌクとトウニンチシ、二人はようやく白い道のへりに着きました。ニシシヌクは言いました。「トウニンチシ、この道はとてもあつくなつてゐるんだ、お陽様がてつているだろ、だから急いで歩かないで、やけてしまふよ」。チシは何だかこわい気がしましたけど、お父さんの心配していたことを想い出して、小さくうなづきました。

「じゃあトウニンチシお先に」ニシシヌクはさきに上つてゆきました。チシもつづいてはい上がりとしました。……そのときです地しびきをたてて、何が通りすぎたのです。チシはおもわず頭をひつこめました。とつもなく、大きなものが、たくさんこつちえやつてきます。それもひつきりなしに！チシはひつこめた頭を、そろそろともち上げ、白い道を見やりました。そこでみたのは、あつああ……なんということでしようか。そこには、

体をちぎられたたくさんの仲間たち、そして今出つて先にでていつた、シヌクの姿も見えました。からだを半分にちぎられ、苦るし

そうに血もながし、もがいていました。からだをくねらせ、苦しそうにもがく、たくさん仲間たちのすがたを、チシはみました。白いかたまりは、なおも仲間たちの上を、通りすぎてゆきました。「ああ……お父さんが言つて心配していたのは、このことだつたんだ」

「きつとそうだ」チシは涙がボロボロながれたのです。涙はとまることなく、あとから、あとから、ながれきました。おお……くるしそうな仲間たち……、「なんでおそろしいんだろ」チシはもう一どお父さんの、心配していることを想いだし、そう思いました。

「……でもボクはどうしても白い道のむこうがわに、行かなければならぬんだ」チシはなぜか分からぬけれどそう思いました。そしてチシは、おもいきりけつ心すると、白い道の上にはい上りました。今さつき、シヌクが上つていつたのと同じところから……：

仲間たちは、まだ苦しんで、血をながし、もがきのたうちまわつてゐるのでした。チシはそのあいだを一心ににはしりました。

それでも白くかたい道は、さつきシヌクが

(これはおしまいの、はじまりでしようか)
トウニンはアイヌの言葉でミニズのこと
シは泣くということ
ニシは空 シヌクとは生きるということ

てホッといきをつきました。そのとき、とつぜんチシは、身体に、はげしいたみをかんじたのです。チシは、シヌクのように身体をくねらせ、血のにおいをかんじたのです。次ぎにきたことは、目の前がだんだんくらくなつてゆくことでした。

(かわいそうな、小さな、小さな、トウニン・チシ……)

チシと、多くの仲間たち、そして友だちになつたばかりのシヌク、その人たちは、あとから、少なく、白いかたまりの群に、ふみつぶされてしまつたのです。ああ……ああ……あとに

は、チシの小さな身体のかたちが、白くかたい道に血も少しづがれ、まるで血のシミのようになどがのこりました。それもやがてお陽様のねつと、風に吹かれて無情にも消されてゆきました。そのあとには、陽にてらされたアスファルトの白い道とねつと、光と草の臭いだけが、かすかに、のこつたのでした。

空爆、空爆、空爆、空爆、空爆、空爆、空爆、空爆、空爆

*****破壊

01・12・31 秋戸空

単純怪奇な社会性（コンピューター社会）

それを（複雑）に見せる（帝国主義）社会
あらゆる民衆の（文化の裡に入り込む）：

誰が殺りき権を持つていたのか？

USA空軍はイラクを空爆でさす少し前

1989年かに

インディア・アメリカ（ラテン・アメリカ）の

ブラジルの極小さな村を

空爆した！クリスマスの日に、気持ちがいじみて

その時それは、そのミサイルの

殺生力！をためすために…と

村人たち3000人あまりを6分間の間に虐殺

した

なのに報道されなかつたし、報道もしなかつた

マスメディア、手に持つた巨大な利得と人心を

分け合う、支配権力とマスメディア

それらは、連動した罪悪なのだ！！

（ミニズやあんこをも平気で踏み潰していく
た人間種たち……）

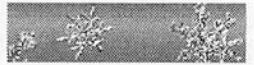
毎日、イベントが催される。
音楽祭あり、映画祭あり、カラオケ大会、
もちつき大会。
裏方さんは大変だ。

支えられたり支えたり

越年越冬闘争を体験して

（新宿中央公園）

平之野 晓星



本部長は、笠井さん。企画力、気配りは抜群である。その指導力、統率力も群を抜く。彼の存在が、新宿連絡会そのものなのだろう。

真紅のガーベラが本部の中央に置かれていた。

パトロール

七時半を過ぎると夜の新宿街へ、仲間の安否を訪ねて回る。星さんが中心となり、三班に分れる。

西口、北口、東口。一班、四十名。

日々、仲間の人数は異なるが、西口百五十名、北

が終わる。

年の瀬を控え、又、新宿に戻って来てしまった。

新宿の街は、十～二十代、四十～五十代を

過した思い出の地だ。

日曜日、中央公園での炊き出しに参加して、

越年越冬の闘争があることを知る。

おいらは、炊き出しとパトロール班で活動

させてもらった。

炊き出し

十三釜炊く。一釜、二升五合余り。三十分

で炊きあがる。

場所は山谷の城北福祉センター前。都内で

唯一、ここだけが公認の火が使える場所だそ

うだ。

釜を洗い、米を研ぎ、まきで炊く。流れ作

業である。

新宿からは、本田さんをチーフとして毎日

十余名が従事する。

その間、公園では、野菜を洗い、肉を切り、

おかげを作る。作業人数は、二十名前後か。

午後七時より配食。日々述べ約五百名を越

える。

毎日、イベントが催される。

音楽祭あり、映画祭あり、カラオケ大会、

もちつき大会。

裏方さんは大変だ。

追記、腕章があれば、いいな。

ホームページ法案の成立も望まれますネ！！

支えあつたり 支えたり

立原えりか氏（童話作家）

の思い出など

矢田道夫

私が高校三年生のとき（昭和31年冬）、越後湯沢の消印のある封書の女性からの便りを受け取った。

そこには、電信柱が道傍の深雪に埋もれた風景の中を歩んだ経験が綴られ、その頃私が傾倒していた宮沢賢治の童話はカリカチュアでしかなく、眞の童話を小川未明の作品としか思えない私のに対する忠告を含んだ文章が原稿用紙五枚にわたりて綴られていた。思い直せば、それは立原えりか氏が「木馬が乗つた白い船」で児童文学新人賞を受けた直後のことであつたと思われる。

二年前まで彼女は同じ高校の文学班の班長で私はその班員であった。それほどの文学青年でもなかつた私にこんな小川未明を信奉する心情を吐露した手紙をくれた意味がいまだに不明なのである。彼女に童話について教えを乞うようなことをした覚えもない。考えをめぐらせば、私があまりに模倣的な童話を書いていたことへの先輩としての忠告であつたとも思われる。

文化祭の発表のとき、「樋口一葉の恋」というテーマで文学班は研究に取り組み、そのリーダーシップを彼女はとつた。これも一般的の女性に比し十代の若さで文学賞を取つた幸運さなのに、な

ぜ不運な一葉に共感するのかわからないことである。

立原えりか氏が、文学班の後輩の作品を批評した文章も憶い出す。そこに次のように述べられてあつた。「高校生のときは世の中が汚れていることに死にたいほどの厭惡を私たちは抱いていました。幼いながらも貴重な日々だったと思います。」と……。宮沢賢治の童話がカリカチュアで小川未明の童話が眞の童話といふ意味は、この辺にその真意を探れるかもと考へているが、いずれにしても私のような凡才には、意味不明の若い日の経験であつた。

同じ頃、一级上の先輩に長坂貞徳氏

（草思社初代社長・故人）がいて、鶴田湖畔の矢倉河岸にある家に呼んでくれた。スナックをやっている姉上がいてカウンターに座らしてくれコーヒなどを出しててくれた。別に文学の話などしたことはないのに、妙に強く記憶にある。長坂氏は私の結婚式でも気軽にスピーチしてくれ、その当時の私は氏が現代詩人たちと交友しているなどとは全く知らなかつた。それは私の二十九才のときのことであった。池田満寿夫と将棋をよく指したとの話を聞いたのも死の直前の筆談のことでのことで、ミュージカル歌手に憧れていた長坂氏が声を失つて他界したのも理解に苦しむことである。

私は文学は人に教えられるものではないと思う。むしろ周囲から刺激されて好きになり、何だかわからないながら自分の中になくてはならないものになる。そんなものだと思えるのである。

色々とこの冬ご心配を かけましたが新宿の路 上は健在です。春へ！

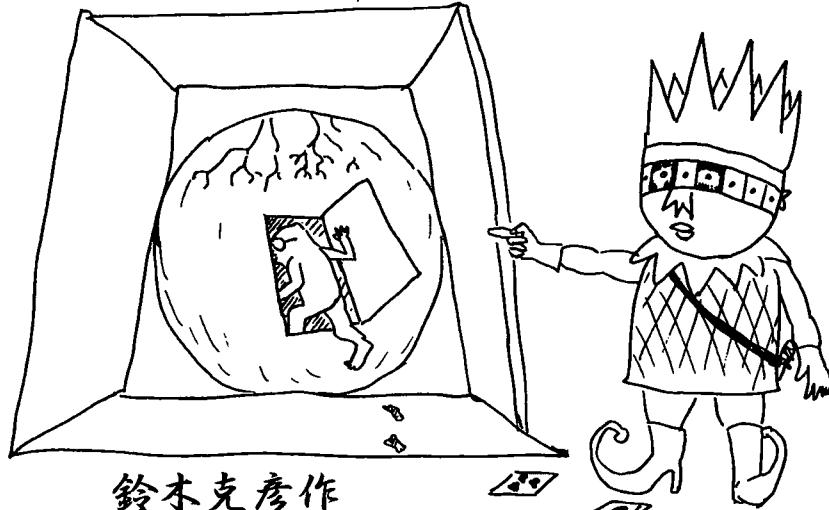


新宿連絡会NEWS VOL.27号越年報告集
好評発売中！(B5版15P100円)
東京路上生活メールマガジン
HOMELESS NEWSも好評刊行中！お求めは手紙、FAX、メールにて。メールマガジンは連絡会HPに今すぐアクセス！

新宿連絡会

111-0021 東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館内付
☎ 03-3876-7073/090-3818-3450 FAX 03-3876-7073
ホームページ <http://www.tokyohomeless.com>
メール shinjuku@tokyohomeless.com
<カンパ金送り先>
郵便振替口座：00170-1-723682 「新宿連絡会」
*カンパ物資は日曜指定でお送り下さい。

朝太郎の箱船



鈴木克彦作

二、朝太郎がやつてくるの巻

四、朝太郎がやつてくるの巻

尊敬すべき 我らが尊師朝太郎がやつてくる 人類最大にして最低なる我らが殿下

黄金を黄金に変える鍊金術師

船底の各大部屋へ ④ カンブと共にやつてくる 諸人ござりて迎えませり 久しく待ちにしアクマの子 朝太郎はきませり 朝太郎はキませり 常に低きを求めて—

(注)

ムサ苦しい大部屋に ムサ苦しい人々の間にやつてクル お陰で腹のナカ頭の中にすぶつていた修羅の思い 空しい思いも消えてゆき

いじめられていた人にもエミが浮かび うち拉がれていた石頭ビープルもほつとす

る

人々一分でもお側にいたい ひとことでもお言葉頂戴したい マンガのようなお姿お好みみたい レッドキングのようなお

手々に触わりたいとムラガリ騒いで ウンチにわいた姐のよう

人々の声は歓声となつて 第九交響楽合唱が聴えてきそうな会場フンイキ アクマ

のハレルヤが響き ラッパが高々となり 悪なる黒羊がクソをたれるよう

何しろジンルイ滅亡を予言して 箱船造りした御仁が我々の前に現われて 痴呆人の手を取り 大口開けて笑うのだから人はハッスルする

大口は唇薄く 笑うと上唇は左右にギュッと伸び 下唇はV型に下がつて逆三角形頬骨つき出て 目鼻も小さく顔も小さく顔骨上に薄皮張り付けたよう

色は黒く背は高く 瘦せぎすで手足は細長い そんな体に半分ハゲた頭をのせてブリキのカカシのようにカテラカテラと歩いてくる

本日は特別の円満顔をしているが ひねた見方によつちやあニタニタ笑いの妖怪面 夏向きの幽靈館の珍列品 妖怪マンガのヘビ先生 さまよい歩くゾンビ面

これがマルキ発電所及びマザーフ牧場 犬猫食肉センター及び精神病院の長 今じや十万吨のタンカー船長様だ

痴人狂人廢人の拍手カッサイ歎声に迎えられ この世の不幸を終身に浴びたひとりひとりと握手をして歩く みちみちありがたい文句をタレながら

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

ではみちみちたれる支離滅裂なことばを語
録にして書きトメてみよう

「わたしは大衆を愛したが それ以上に奇

人狂人 パン助 ホームレス 白痴
赤ソ坊を愛した」

「飢えては食らい 寒くては着る者を愛し
た 茶にありては茶を喫し 飯を喫し

では噴飯してウンチをたれ 坐禪にお
いてはイネムリをコク者を愛した（注）」
朝太郎何かを喋べれば人々オオイニ笑い拍
手を惜しまない 蛇みたいに首を伸ばし
口唇を広げて語るデタラメを ありがた
がつて拝聴する

「人は死んで人となり 姉は死んで姉とな
り 母は死んで母となる 生きてる時
はヒトだかキジだか分からなかつたか
ら射たれちゃつたがー」

「頭の中はミツソクソ 見るもの言うこと
汚ないことばかり やること成すこと
悪いことばかり」

「そもそもアクマの法典ひもとけば 人は
みなアクマのウンチから涌き出た蛆虫
だと説かれている だから度し難い神
には嫌われる」

れを蛆が食し 蛆をエビカニが食し
エビカニが鶏を食し 鶏の肉と卵が人
が食う

ウンチに力を得て 生き生かされる こ
の人々分かっているのか理解シガタイのか
どこかの宗教の教祖と信者 人気ロック
歌手の熱烈ファン 毛さんと紅衛兵と同
じヤウニ やたらと感動して騒いでいる
朝太郎もまた人々の種姓を見抜き その者
に合つた諸々のいいかげんな法を説く
「ウンチは万物の過客にして 行き交う人
もまた狂人なり チホウの口に捕えら
れ食われるも 食うは空 食う者も食
われるモノも アクマから頂戴したウ
ンチ循環作用の命であれば またあり
がたくアクマの元に還る過客なり（注）」

感激に涙をミナギラせる人々をスギ抜けて
隣の部屋に入つてデマカセ説法
そこへ出てきた夕太郎 朝太郎の後ろにあ
つて師のお側から離れた人々に 朝太郎
尊師のことが語りたくなつたのか 二番
センジをヤラカシタ

「アクマの法典 常狂編その一
むかし狂つていたことを 後日何回も復
習してみるのは楽しいものである
むかし一緒に狂つていた友が遠方からや
ってきて 共に復習してみるとことは楽
しいことではないか いや楽しい

普通人 あまたありける中に いとや
そこへ出てきた夕太郎 朝太郎の後ろにあ
つて師のお側から離れた人々に 朝太郎
尊師のことが語りたくなつたのか 二番
センジをヤラカシタ

我々が狂つているのを人々が知らないか
らといって憤る者は眞の狂人ではない（注）」
また 朝太郎なんかまるでムシしてひとり
壁に向つて呪文称えたり ひとり丸まつ
て黙つている狂人にも優しく語りかける

「賢なるかな狂人や イチゼンの箸 ヒト
ツのオワン 船底にあり 多くは憂い
に耐えられぬのに この生活を改めず
に狂つて朝太郎 グツと鉄板の天井を睨
み ガイアナの大量自殺やブランチビデ
アンの末路 この間のサリン事件や大量
殺人計画 そして神々の人類みなゴロシ
大作戦を憂い 踏みつけられた人を救お
うと悲願達成をアクマに祈るのだった
そんな尊師に人々歓喜し勇躍し ああもつ
と光をもつと説法をと ピートルズファ
ンのようにハシャイで群がり拝む

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

んごなき際にはあらぬが 狂つて時め
く者ありけり (注)」

などと語り始めたが 人々さっぱり分から
ない むしろバケモノみたいな朝太郎の
バカ語の方が面白いし魅きつける でき
ることなら尊師の方へ行きたいが 人が
群がりそうはいかない

なのに止せば良いのに夕太郎 大仰仰に
「母の左脇から生まれた朝太郎 気は優し
くて力持ち 生まれてすぐに六歩行

『天上天下唯我クレージー』と大音声
で叫んだので 母堂腰ヌカス』

何を偉そうに!偉くもないくせに!この語
り部のわたくしでさえ 三十年も尊師に
仕てきた者だ お前なんかつい一年前に
風評を伝え聞いて ④ブラクに入ってきて
た新米ではナイカ

元は牧師だったらしいが 自惚れと自己顯
示力ばかりが強く 信者は集らず 説法

は下らなく 生きる力なく 朝
太郎のタキ出しでも食つて世すぎ口スギ
しようとやつてきた

ハテは朝太郎の上皮に心酔し 名前まで夕
太郎と改名し 勝手に師の片腕だとウソ
ブイテ偉らそうにしても そうはイカナ

イぞ

よく見てみろ朝太郎尊師がいかに人々に好
かれているかを どんなことを言つてい
るのかを――

「みなさん よーく船に乗つてくれました
ね ありがとう ありがとう よく生
きながら教えてくれました

これからは アクマに選ばれた数少ない
者として 本能のおもむくまま 尻の
楽しみ 口の楽しみを満喫して下さい
と言いたいが

船は總がシヨーテスト 食いモンはエビ
カニとキリボシ大根しか余つていない
女もきわめて少ないが アクマ様に今

日あることを祈りましよう

何百万年の人類の歴史の中に 何百何千

万痴狂人 魔女 デキソコナイが蹴り
踏マレ 頭を割られ 飢えさせられ

火炙りにされ 差別の中に遁つた三界
の痴狂人の万靈のために祈りましよう
もう彼ら加害者に 上げる手もなし 蹤
る足もない 吸う空氣さえもない

先祖様方の恨みは解消し 希望は成就し
た 今や痴人の時代 長い間の苦しみ
も消え 晴れて生命を謳歌し 死ねば

地獄の天部として化生する――これも無

始無終 三千世界に冠たる大魔神のお

導びと我らが悪功徳

むかし 一〇二人の囚人達が新大陸アメ

リカに自由を求めて渡つたよう

我々はヘドロを被つた新大陸 クレジ
ニアを目ザソウ!

乙女の祈りの曲に合わせ 朝太郎が拝みこ

れに和して多くの悪党痴人が共に祈る

祈り終わつて朝太郎 女子小供老人の小部

屋に入つて 四・五人いる幼児小供の頭

をなでさすり 小さな足をつかんでニコ

ニコと握手握手をする

だが心ない女の中には 師の三角口に小供

が食われはしまいかと骨え 赤子を抱い

て後ズサリ 赤子も泣き出すシマツ

どうやら悪魔崇拜者のサバトの内容が

んでもないよう に伝わつたせい

アクマが赤子を殺して心臓を取り出すなん

てトンデもない それは神へのイケニエ

にされた 戦争で得た殺される挾めのホ

リヨ達のこと アクマとはカンケイあり

ません

朝太郎 小供と女と三途の川の水は思い通

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

さてさて この語り部のわたくし大いに不満
そもそも今頃になつてから 朝太郎が登上
すること自体が全くおかしい 主人公の
立ち上がりこそ一番始めに出すべきだ
これも戯作者山下金七の頭が本末転倒し
主客が顛倒し アベコベさかさま デタ
ラメさ バラドクシカル・アイロニー的
ワルイ性格に起因する

やつは何よりも 頭のイカレはチンポのイ
カレ 心のイカレはマンボのイカレの名
文に狂喜して 起承転結や序破急序論
本論結論などをムシするハレンチなやつ
だから

ダカラタ太郎などという贋物がワガモノ顔
でシャシャリ出るスキを与えてしまうの
だ

その尻拭いにワタクシが事を順序立て ツ
マビラカニ述べねばならん 朝太郎も朝
てられ 夢を追いかけてハテハ現実に復
讐されるタイプ 全くモ一話にならん
太郎だ 金七にクソヒリ大王などとおだ
ハーハー 少し興奮イタシたれば 事にお
許しのほどを—だがお立ち合い 大礼は

さでさて この語り部のわたくし大いに不満
そもそも今頃になつてから 朝太郎が登上
すること自体が全くおかしい 主人公の
立ち上がりこそ一番始めに出すべきだ
これも戯作者山下金七の頭が本末転倒し
主客が顛倒し アベコベさかさま デタ
ラメさ バラドクシカル・アイロニー的
ワルイ性格に起因する

やつは何よりも 頭のイカレはチンポのイ
カレ 心のイカレはマンボのイカレの名
文に狂喜して 起承転結や序破急序論
本論結論などをムシするハレンチなやつ
だから

ダカラタ太郎などといふ贋物がワガモノ顔
でシャシャリ出るスキを与えてしまうの
だ

その尻拭いにワタクシが事を順序立て ツ
マビラカニ述べねばならん 朝太郎も朝
てられ 夢を追いかけてハテハ現実に復
讐されるタイプ 全くモ一話にならん
太郎だ 金七にクソヒリ大王などとおだ
ハーハー 少し興奮イタシたれば 事にお
許しのほどを—だがお立ち合い 大礼は

小説を辞せるとか申すではないか 金七

は包丁 我らはマナイタの上の魚肉なり

老子も天下を治めるのは小魚を煮るが如

しと申してオラレルが その一寸の魚に

も五分の魂はある

朝太郎を信奉する小魚のスパークスマン

副報道官 シガナイこの語り部が 希代

まれなるアクマの寵児朝太郎のお話を本

人に全くその気はないが後世に残したく

伝えたくだからこそ今頃になつて述べる

口上と語りまする物語を どうかシマイ

迄ごゆるりと お聞き下さるよう オン

願い申し奉る次第にござります。

幻

敵は幻
聞う力は
まだある

そのことに
気づけ

小説を辞せるとか申すではないか 金七

は包丁 我らはマナイタの上の魚肉なり

老子も天下を治めるのは小魚を煮るが如

しと申してオラレルが その一寸の魚に

も五分の魂はある

朝太郎を信奉する小魚のスパークスマン

副報道官 シガナイこの語り部が 希代

まれなるアクマの寵児朝太郎のお話を本

人に全くその気はないが後世に残したく

伝えたくだからこそ今頃になつて述べる

口上と語りまする物語を どうかシマイ

迄ごゆるりと お聞き下さるよう オン

願い申し奉る次第にござります。

週末

俺は毎週
土曜の朝には
優雅な時間

三百十円
モーニング

小説を辞せるとか申すではないか 金七

は包丁 我らはマナイタの上の魚肉なり

老子も天下を治めるのは小魚を煮るが如

しと申してオラレルが その一寸の魚に

も五分の魂はある

朝太郎を信奉する小魚のスパークスマン

副報道官 シガナイこの語り部が 希代

まれなるアクマの寵児朝太郎のお話を本

人に全くその気はないが後世に残したく

伝えたくだからこそ今頃になつて述べる

口上と語りまする物語を どうかシマイ

迄ごゆるりと お聞き下さるよう オン

願い申し奉る次第にござります。



(注)は、引用、書き替えたもので、必
要があれば(著作権などの問題)、これを
正式に届ける用意があります。

五行詩

虚 実 生きること 現実?
生きてること 幻想?
是、人生?

冬

雨 水

桜の季節は
遠からじ

降り止まぬ
雪

雨水の候

春まで何とか
生きてやる

鳴り止まない
風

止まらない空

目の方で
上升して行く

手も足も
舌も出ない

そんな日も
思う

ふらふらしてた
風に運ばれ
どこへ行く

腹へって
力でなくて

腹へって

無理やり酔う
上升して行く

二日酔い
株価
失業気配
今夜もまた
無理やり酔う

透明な
エレベーターで
上升して行く
上升して行く

天王家の秘出白

に關して②

A・S・デービッド

天皇家の祖先は、ズバリ、古代・朝鮮、最端（西南部）の『高靈（伽羅）』と云う、弱小国の王族です。高靈は、古代・扶余族の建国した、古代・高句麗・大王国の分国ですが、高句麗（高麗）の麗を靈に、故意に作為的に改字してある事は、自明ですが、靈（死）と解すると、高句麗・王国の、流刑地（同族の敗走）敗残（亡命・地帯）である事が眞眼の士には、自と分かるように、なつて居ります。高靈の靈は、實に絶妙な改字ですね。音読も、コマや、コウライではなくして、カラとするとは云う、變字する事、羅（高麗）→古代新羅ですから、古代新羅を牽制し、圧力を加える為の、分国とも云えます。

現代の古代遺跡では、最大、最高、最後を誇る『飛鳥』一は、高松と云う、裏葉の一意図が隠蔽されて居ります。話は變りますが、高天原をタカアマハラと読んでも可ですが、古代（現代まで）の訓読は、タカマガハラが正解なのです。

天皇家の祖先は、ズバリ、古代・朝鮮、最端（西南部）の『高靈（伽羅）』と云う、弱小国の王族です。高靈は、古代・扶余族の建国した、古代・高句麗・大王国の分国ですが、高句麗（高麗）の麗を靈に、故意に作为的に改字してある事は、自明ですが、靈（死）と解すると、高句麗・王国の、流刑地（同族の敗走）敗残（亡命・地帯）である事が眞眼の士には、自と分かるように、なつて居ります。

『あ・す・か』は、あは天空、すは、鳥、かは、駆け巡る意味であります。あ・す・かには古代・高句麗王国の発祥の地から『ヤマト（日本の本）』に渡来し、悪く云えば古代日本の一帯を植民地化、属國化する為に進駐、侵略して、高句麗（高麗）の分国（部落・國家）を、デツチ（日本語）で上げる（造國する）事に大成功したと云う、裏葉の一意図が隠蔽されて居ります。

『神武』（日王）は、勿論、高句麗・王族の流れ血脉です。神武（日王）は、実在した大王です。実名は○○○ですが、これは、私方の企業秘密なので、例え、平成・日王（日本王）様にも残念ながら

塚で超有名になつた訳ですが、発掘され

た墳墓内壁画に、古代・高句麗の衣装と推定されるモノで、着飾つた女人の姿が千数百年を経て、陽の目を見た事は、何を物語るのでしょうか？高松塚の高松の高は、高句麗の高であり、松は、扶余・

アトマの違い等、どうでも良い、本質を追究する事が、本筋だと内心思つて居られる方も、居るでしょうが、微細な訓読や音読にて、に、お、は言葉の使い方に、古代（ヤマト）の神祕が密閉されて居るので御座居ます。

『余談』になりますが、有名な俳優の、高倉・健の高倉は、高・句・麗と訓読すると、滅亡した、古代高句麗・王族の千数百年（來）の妾執の深さに驚きます。古代、朝鮮で最大・最高・最強の高句麗・大王国は、成る程、史上から姿を消したが、その、大王国の、事實上の、植民地であった、日本の（あすか）は、現在も、生き続けて居り、有名人の姓（筆名や芸名）にも使用され続けて居ます。女性では、高倉・みゆきと云うスキヤンダル女優がいましたが、開話休題、日王（日本国王）が即位の儀式の時、着座する、王座を、高・御・座と呼びますが、尊称の御を、取り去ると、アーラ、アナ、アナ不思議・高座（高句麗）になるでしょう！！日本（日本）の、皇祖・高宗は、これで、古代・朝鮮の高句麗・王国である事が氷解したでしょう

御教示——する事は出来ません。

現韓国や、現北・朝鮮の歴史・学者が、永久に究明しても、絶対に神武・日王の○○○は判明——出来ません。

何故か？古代・高句麗・王室の、王位・王權・相続——闘争で——暗殺——寸前の、神武・日王の御実父は、赤子の時、乳母役の同系王族の王女——により、救助され、（ホームレス）——路上生活を余儀なくされながら、命からず高靈の秘密の、ヤシロに逃れ、ホトボリが冷めてから、復活、再生し、当時の高句麗・大王からも許可を受け百濟の王位に着き、ミマナ——小國の王位も兼任した後、何と、——古代・飛鳥に——渡来し——彼の墳墓は世界最大の、巨墳墓——大山・古墳——仁徳・日王・御陵に、合祀されて居るので——御座居ます。神武・日王の御実父の高句麗・姓名は、○○○です。

源平政争に完敗し、皇室——天皇家から追放され、四国の讃岐（香川県）に遠流された：天皇家の天皇・上皇・経験者で、天皇家——最初のホーム・レス——経験者——ですね！！

崇徳上皇・御靈示歌。（靈示・受信者）

（オホヤマト・トヨヒ・アマタラシヒコ・聖・眞・徳）古代朝鮮・高句麗・王国・王室・専用・發音↑）

◎久方の——海人族——神は、

民——をば、寿——して、
＊三——和——都（＝徳、土）——
造——營——せん——や——!!

清淨人——？——とは、生まれながら俗世に於いては完全——受難者——を——意味します。

イエスや、ジヤンヌ・ダルク——の様に、世界的に、超有名になつた方々も存在しますが、聖別された清淨人——とは、原則——として、完全・無産、完全・無名——です。

イエスやジャンヌ・ダルク——以上の受難者は、古代——現代——まで、存在してます。——現在進行形（ing）——です。

（真正・聖靈）の分靈分身——者は、世界各国に、存在してますが、絶対にP.R等しませんし、國家権力に味方する事もなく、俗世の地位・名譽や財産・

肉体や精神は、原則としては、平生別——聖別（受精と同時に生の瞬間

より分別される——の意味です）されて

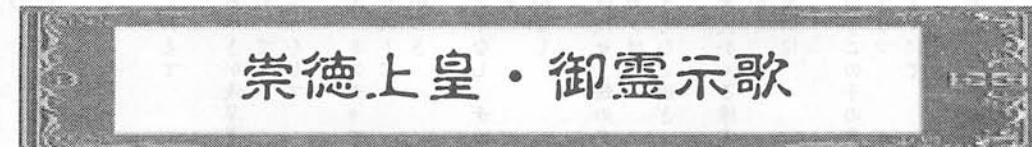
——居ります。そんな？不平等——許さぬ!!と激怒なさる路上生活者やボランティアの勇士も存在すると想いますが、

聖別——された人間とは、諸々の靈界の

完全・人柱——又は、人柱・代行を意味

します。誰が好き——このん——で——イエスの如く磔刑される事を望むでしょうか？

崇徳上皇・御靈示歌



新編・マンモス交番 PART III

順不同 望月大成

正体は江戸の番屋の岡つ引
忍者三上は
權力のダタ

職權の濫用などは朝飯前
浅草署長
指をくわえて

不当なら諒めるべきが浅草署
お目をつむつて
寝たふりをして

浅警の一級市民 ホンチョでは
ブラックリストに
赤丸がつき

三上殿 君はノーなし デカ辞めよ
相手に不足
張合がなし

情あらば少しは残せ 飯のタネ
スッカラカンは
チヨイとひど過ぎ

こちどらは医者代かゝる障害者
三上いづから
殺し屋の役

スパイ戦 あの手この手の悪あがき
シブのボケサツ
元のまゝにて

近づくな 忍者三上は疫病神
使われ損で
たつた七千

スパイにはたこ足食いの知らんぶり
敵をだますは
まず身内から

スパイ殿 たこ足食いはやらぬべし
自腹切っては
まるゝの損

身分違えば
いつもボロ出し

スパイでも雑魚は評して情報屋
士官、兵卒

サツの裏金

スパイはノーあル鷹を使つべし
バカとハサミで
大作の敵

スパイより払い下げ品 我がスーツ
ネームは『飛田』
二代目ぞなる

学芸会出 二代続きのスパイかな
山日芳は
大作の敵

山争団 気が許せぬは過激派の
牧師が陰で
後楯して

忍者三上
何やある 市民の集い
開けつ広げで
隠し事なし

大成
さすがかな サツがドケチの官給品
まるさし同じ
万札に釣り

バーゲン品 ヨーカ堂にて八千円
大笑いして

これ、テスト 質屋持込み バーゲンの
スーツ上下で
たつた千円

いぢらぐ
一六にバカにされでは世も末ぞ
シブチソ警察
恥の上塗り

元刑事・解
だましの手 逃げの一手の予防線
七千円は

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

竜宮じゃお帰りあちら
バーゲンセールの即退去
馬衣裳では

大成は特別扱い バーゲンの
馬衣裳着て すいゝのすい
官級品 バーゲンセールで八千円
馬人はどうせバーゲン 馬市場
七千円で ちょいとましやも
たゞき買いされ
風切つて歩く姿は紳士風
サツが仕着せの
馬衣裳着て
山谷では学会人脈 眉に唾
裏でガッチリ
権力と組み
やり出すとやめられざるはスペイかな
馬を踏み台
たゞ飯が食え
三代目 ついに現わる 小粒でも
二代目よりは
ちよいと格上
スペイとてまつたくズブのド素人
爪がまる見え
ノーなしの鷹

アフレではスペイの稼ぎ 三百万
ひづめ丸出し アイツでは無理
三百萬 握れば山で大いぱり
大成真っ先 白旗を揚げ
大物は稼ぎたっぷり 三百万
アイツでは三百万はとても無理
七千円で 使い捨てやも
大物がくるとはとうに地獄耳
まさかアイツが
三代目とは
一番手 二番手ともに使い捨て
ノーなしなれば
ばつさりでチヨン
汚なきはサツよりはるか 忍者三上
君は知らずの 裏のやり口
元刑事・解説
重病のマルキがだましてスペイさせ
その又スペイ シミタレのS
三上とてその正体は岡っ引
海老で飼鈎る 小わざ使いは
馬子 もうやめよ サツをたゞきもほどゝに
窮屈猫嗜む
大やけどやも

お取込み やらせるならば錢持たせ
シミタレ野郎の
お合手はせず
元刑事 元刑事
星は大成 バチシ堅めて
大成 驚かず どうせシミタレ プー太郎
安さ七千 ダバ馬の口
大成 驚かず どうせシミタレ プー太郎
世帯組んだら
终生は馬
鍋の蓋
ポケサツにだまされ上手じや見込なし
世帯組んだら
终生は馬
元刑事
君も年 大センセーと世帯持ち
ちよいの辛抱
花咲かの爺
元刑事
忍者三上の
ムシヨ送りまで
大成
やめぬなり サリンまかねどベンが劍
忍者三上の
ムシヨ送りまで

お取込み やらせるならば錢持たせ
シミタレ野郎の
お合手はせず
元刑事 元刑事
星は大成 バチシ堅めて
大成 驚かず どうせシミタレ プー太郎
安さ七千 ダバ馬の口
大成 驚かず どうせシミタレ プー太郎
世帯組んだら
终生は馬
鍋の蓋
ポケサツにだまされ上手じや見込なし
世帯組んだら
终生は馬
元刑事
君も年 大センセーと世帯持ち
ちよいの辛抱
花咲かの爺
元刑事
忍者三上の
ムシヨ送りまで
大成
やめぬなり サリンまかねどベンが劍
忍者三上の
ムシヨ送りまで

御嶽山 話したつけ 聞いたつけ

ロ・野醉松



悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。

慰められるよりは慰めることを、

理解されるよりは理解することを、

わたしが求めますように。

わたしたちは与えるから受け、

ゆるすからゆるされ、

自分を捨てて死に、

永遠のいのちをいただくのですからーと。

01年の最後の今日一日、12月31日が始まった。

御嶽山荘一泊二日、参加する仲間は39名と聞いていた。

12月24日、月曜日に橋本公民館、津久井グループのAAミーティングに参加することができた。休日のため仕事が休みだったからだ。

ステップ11—自分で理解している神との意識的触れ合いを深めるために、神の意志を知り、それだけを行っていく力を、祈りと默想によつて求めた。
本の題は「12のステップと12の伝統」。
朝、目覚めると、必ず目を通す。そして、祈りと默想をするようになつた。

一神さま、

わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。

憎しみのあるところに愛を、
いさかいのあるところにゆるしを、

分裂のあるところに一致を、
疑惑のあるところに信仰を、
誤りのあるところに真理を、
絶望のあるところに希望を、
闇に光を、

ケースワーカーの方からお正月休みは10日もあるのだから、予定を立てておくのがいいよといわれていた。

お酒はとにかく巧妙で、不可解で、強力だ。どこからやつてくれるのかわからぬ。何か予定しておくことは大きな防衛になる。楽しみを作ることは前進だし、生きがいだ。

お酒を飲まないで生きることは、お酒に對し無力を認める事だ。無力を認め続けなければならない。何とか1月8日に仕事に行く

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

ことができますよう…。

大きな予定としては、12月31日から1月1日の御嶽山、1月2日はホームグループの会場チエアマンとしての責任がある。6日目の日曜日は新秋津グループのフェローシップ高尾山ハイキングに参加させてもらう話を他のミーティング場でも話している。1月7日は橋本公民館津久井グループの昼のミーティングのあとカラオケをやつて、そのあとは横浜県央地区の会場に行く事を決めた。1月3日は同じグループのロングと9時30分に都営大江戸線練馬駅で待ち合わせをしていて、明治神宮での初もうで、城南地区、原宿ノリオビルの会場に行つて、それからは豊田へ行つて、と。4日の日だけは予定を決めていなかつた。

青梅まではいつものように、中央線から青梅線。10時20分に到着した。

とにかく天気は上々、突き抜けるような青空が広がっていた。調べてみると10時41分発奥多摩行きがある。10時33分にモハ201-263は入線してきた。御嶽山着は10時58分。

列車に乗つて驚いた。新幹線ひかりの個室で旅行したことがあるが、それよりも、もっとぜいたくな17分を過ごさせていただいた。広い車両に数人の乗客しかいないこともあって、ゆったりと過ごすことができた。途中、検札が来た。イオカードを出したら「どちらまで」といわれ、「ミタケ」というと、「イオカードは青梅までですので、ミタケ駅で駅員にカードを出して精算してもらつて下さい」といわれた。イオカードの使用をできない所へ行くのは久しぶりだ。新宿から1時間とちょっとの所なのに

ぜいたくな17分はまたたく間に過ぎた。雪の帽子を被つた山々を眺めながら、01年最後の今日一日を楽しもうと思った。御嶽山荘に12時50分に着いた。12時10分昼食。ケーブルカーが走つていて、標高407米の滝本駅から標高831米の御嶽山駅へは6分で行ける。そのケーブルの線路に出合う初めての場所に長イスが



あつた。いつものようにレンヂでチンして作つたお弁当を今日もおいしくいただいた。リックも軽くなつた。

山荘前の広場では先着組が6人もいて、にぎやかに昼食をしていた。とりあえず荷物をそこに置かせてもらつて近くを散策した。

御嶽山は929米、素晴らしい眺めだつた。御嶽平に行くと大藤があつて、とてつもなく大きな大藤だつた。とにかく足は軽い。お酒を飲みながら山歩きをしていたころも軽快に歩けたのだから、お酒を飲まない今は、とにかく軽快だ。息苦しい思いはなく、飛ぶように、走るように歩ける。天国へ行く時はたぶんこんな風に歩くんだなあと思いながら…。

15時に部屋に入ると仲間が一人、温かいストーブに見守られて昼寝をしていた。やがて多くの仲間がやつてきた。口々に「寒いヨオー」「疲れたアー」「しばらく」「ここでなら会えると思ってたヨ」「元気そうネ」「お久しぶりネ」と口づさみながら握手を求めた仲間もいた。みんな笑顔だ。いい顔だ。

お風呂からの眺めはバツグンだつた。浴槽にゆつたりと身を沈めて今年一年を振り返つてみた。とにかくお酒を一滴も飲んでいない。どう考えたつて不思議だ。18才から飲み始めて、00年4月25日まで、ただひたすらお酒を飲み続けていたのに……。37年間のお酒の人生が終わつたのだと思つた。

自省館を6月8日に出て、新宿区百人町のアパートに移り住んだ。12月5日に6ヶ月のメダルをいただいた。ワンドーのメダルはカトリックハ王子教会でいただいた。6月17日の南多摩地区のステップの集いの司会をさせていただいた。大きな力をいただいた。翌日の6月18日から板橋にあるみのわマックに通わせていただいた。約2ヶ月半のそれは飲まない力を大きくさせてくれた。11月から仕事を始めた。アルコール依存症者であることを明らかにして……。そして、生活保護を受けていることも……。

出会いがあった。多くの仲間を見た。多くの話を聞いた。そし

て話した。変わらないものを受け入れる落ち着きを、変られるものは変えていく勇気をいただいた……と思つた。

18時をすこし過ぎて夕食になつた。39名の仲間が一齊にごはんなのだ。お酒がなくつたつてにぎやかだつた。おさしみ、焼魚、山菜、さしみコンニャク、年越しそばもおいしかつた。

部屋に戻つてテレビを見ていたら同室の仲間が入ってきた。「南多摩、にしき町のロダンです」と自己紹介したら、「八ヶ岳グループのBです」といった。「えっ」と思った。

ロダンは山が好きだ。高校時代は山岳部の部長だつた。山岳会にも所属していた。今思えば、歩くのが好きというより放浪癖と思えるのだが、とにかく一ヶ所にじつとしている。浮気症なのかも知れない。好奇心が強く、感性も豊かだ。詩や歌や、俳句、そして、いつもこんな調子で書いている。

「八ヶ岳グループって、どこにあるの」

「小淵沢です。山梨地区になります」

また一人仲間が入つてきた。同じように挨拶をした。やはり八ヶ岳グループの方だつた。妙に心がうずいた。放浪癖なのか、好奇心なのか。

「小淵沢は、いつミーティングをやっていますか」と聞いていた。

「お正月は4日の金曜日に今年一回目のミーティングがあります」

「地図はお持ちですか

「ええ、ありますよ」「えーと、リックの中かなあ」ガサゴソ。
「あつた。あつた。じゃあ、これ、差し上げますヨ」といわれ、手渡された。

アルコホーリクス・アノニマス 山梨地区ミーティング案内があつた。2001年4月1日現在とある。週間予定表があつて、開いていくと、7、小淵沢福祉活動センター、北多摩群小淵沢七

七一 金 BBとある。BBはビックブックのことだ。案内図

があつてJR小淵沢駅より900米ですとある。時間夜7..30..9..

00、開催 八ヶ岳グループとある。

しばらく眺めていて、行きたいと思った。やがて行こうと思つた。行こう、行こうと思つた。そして行くことに決めた。その時の気持を一句

積もるのは 雪ばかりでなく

恋心

「1月4日小淵沢へ行きますから、宜しく」といつていた。

二人は驚いた顔で、それでもニコニコして「来ていただけるなら、ぜひに」といつてくれた。

「問題は、帰りの列車があるかどうかですね」といつていた。

12月31日23時57分、武藏御嶽神社に着いた。

除夜の鐘の音と同時に、おさい錢を入れて、'02年を飲まないで過ごせるように祈つた。飛ぶように走るよう御嶽山荘に戻った。途中、仲間と行き交つたが、翌日「あの足の速さにびっくりした」といつていた。

すぐに眠つた。

元日、朝6時に起床。さわやかに顔を洗つて歯を磨いた。

日の出山山頂に着いたのは6時45分だった。雲が地面にはいつくばついて、太陽はなかなか出てこれなかつたが7時15分に雲の切れ間から顔を出した。陽光はサンサンとロダンにふりそそいだ。その時の一句

ただ感謝 仲間の愛の 初日の出

AAの 仲間の愛の 初日の出

飛ぶように走るように御嶽山荘に戻った。8時から朝食、そにかくおいしい。

一番早く朝食を済ませ、部屋に戻つて帰り支度をしていたら、八ヶ岳の二人も戻つてきた。

8時30分、4日に逢いましょうといつて、固い握手を交して御嶽山荘をあとにした。



ハーブの魔女

秦國から一越。アーノルド博士の新時代
新タイプだと意気込んで
まだがなかなか元の勢いたのが思ひつかない。

十脚ハ倒、頭をかきあしり、
散歩にも出かけ、腰を伸もしてすた。
なんだか、四回…

「あれは最後の手段、もったいないから どうぞおつかれ。これは 血力で
やつてみるか」と考へた。

「供の魔女は私は魔法使いであった。だから「難じ」と云
おきこも大丈夫。しかしとなれば魔法を使つもん。プロイアポン、
なんとも解決。ちうりーちうりー。」

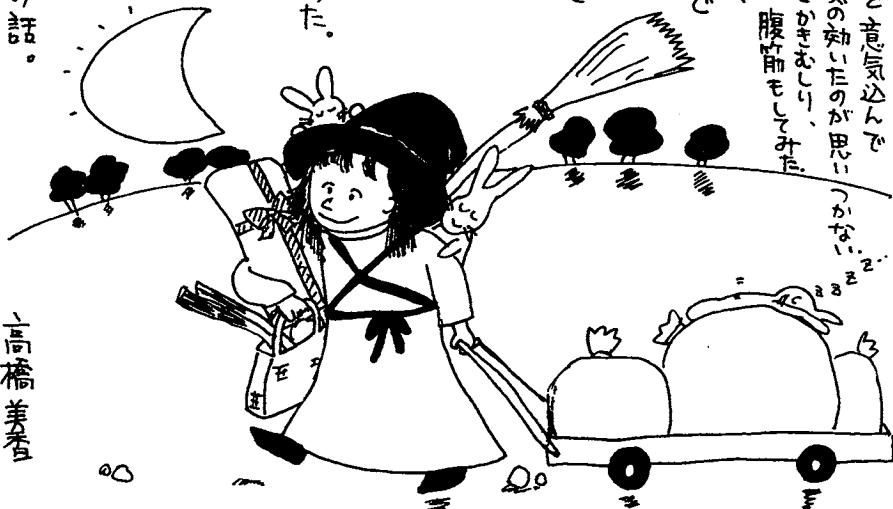
でもこの魔法、使ふるのは 一生に一回。(アーノルド博士認定)
いつ使うかはよく考へなきゃ。それで 大抵の難しことには
魔法を使うにはまだまだもったいない、と、血力をやってしまつ
ことにしていた。

不思議なもんで 最後にとつておきの方法があると考へると、何とか やめたのだった。我ながら妙な作戦を想ひつけて供であった。

二十年近くたた現在、未使用だった魔法のことを
考へる。ホコリをかぶり、すでに効力を失してしまつたが、
もし使えるのなら 今ここで使つてしまつた。半ば冗談、半ば
切羽詰まる。でもやはり、身体無い、一回しか使えないんだから、
つづはひとつ「血力で…」と考へてしまう。

「魔女といふ、其のから変わらず 私のハーブの源は、… 単に

高橋 美香



東京

第17卷

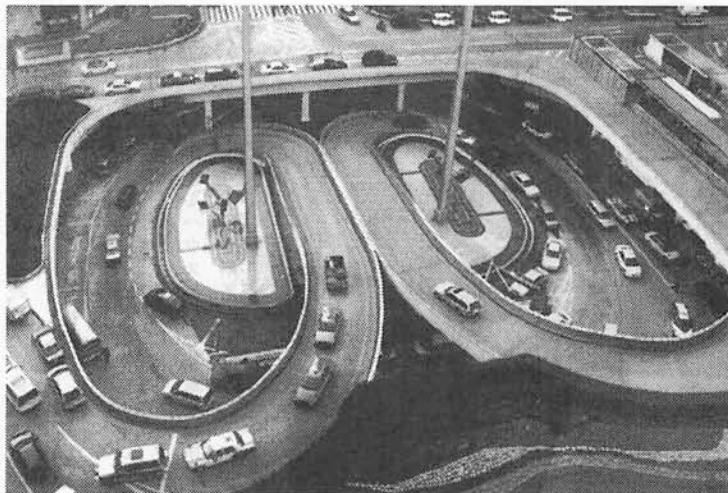
路上

散歩

ふらり

写真・岡田知子
文・笠井和明

「狂った冬～西新宿」



この風はどこへと吹き抜けるのだろうか？

冬季オリンピックイヤーであるこの冬、ちょうど四年前と同じく土曜日、何ものかによって新宿中央公園に仕掛けられた爆弾が、不幸にも旧知のおっちゃんの目の前で爆発した。

雪が降る変わりに雷が轟く狂った東京の冬は、寒さではない何かを伝えようとしている。長い沈黙の中で鈍化した心はその爆音と共に呼び覚まされ、再び慟哭を始める。理屈では決して割り切れない不安に苛まれる。

何が一体どうなっているのか、その事だけを知りたくて新宿駅西口を降りる。

四年前に消失し、後ろ髪を引かれながら自主退去した西口地下広場は、あの頃と同じような喧騒の中に今もある。ここで数百名の人々が生を営んでいたとは、今は想像も出来ない。深夜まで続く足音の中、よほど神経がなければおそらく熟睡も出来なかつたであろう広場。

復興したインフォメーションセンターのガラス張りの空間の中では、西口振興会の物産展。ダンボールハウスは通行の邪魔だとか言いながら自らの出張店舗で広場を埋め尽くし商売に勤しむおかしな空間。露店は許せぬが官許の出店はかまわないという図々しさ。新宿東口との差異は東京都という巨大行政と結託し、下手な開發をしてきたお上依存意識か。ホームレスのせいで売り上げが下がつたとあれだけ訴えておき



ながら、それでも繁盛しないとなると、今度は景気のせいにでもするか。永遠に誰かのせいにしておけば良い。

四号街路の動く歩道は土日は商店休業。都庁や高層ビルのためにだけあり、一般の人は恩恵に預からない歩道。変節漢の青島が何の為にこの歩道を作ったのか、御当人が一番その事を知っているだろう。西新宿移転後の都政最大の恥はこうやってこの地に残り続いている。傾斜し、わざと人が座れなくしてあるおかしなオブジェと共に。

想い出などは西口地下にはない。そこにあつたものは苛立ちだけである。他の選択肢がない中でそこに住まわざるを得なかつただけである。ダンボールハウスがない新宿西口地下広場を歩けば、そんなことがありありと解る。

撤去と撤去と殺人事件と路上死と火災事故。何一つそこには新宿らしさはなかつた。不幸の連鎖、悲劇の連鎖以外の何もなかつた。



圧迫感しかない地下から地上へと出る。かつて絶望的憎しみが悲劇を呼び起こしてしまった西口バースロータリー。新宿の戦後をかすかに遺すしょんべん横丁もまた火を出した。日々発展するその外見とは裏腹に、悲劇がロータリーの形状と同じく螺旋状に混じりあう街。中央通りの両側には高層ビルが不格好に建ち並び、景観もクソもなく空を灰色に埋め尽くす新宿副都心。生命力が隠れいされ、閉じこめられ、どこへも発散されない街。バブル期以降の東京の再開発地帯特有の乾いた匂いと、戦後史以降の濃密な歴史が喧嘩をし続け、けれど、古き者が常に負け続いている街。喧騒だけが勝り勝て！奇立ちはだけが勝り勝て！

カリヨン橋を渡り、エルタワー前で降り、ヨドバシカメラだけが賑わう商店街を歩く。労務者やホームレスで丸儲けした北沢酒店の一杯飲み屋は、今や回転鮨屋に変わり、若い客が列をなす。出世したものである。ゴミゴミとした店並は見慣れた風景なのだが、地下と同様、どこかのつべりとして嫌みもなければ何もない。一層のことこの地にまでつかいビルでもおつ建てれば良い。

けれども何故この地にこうも高いビルが建ち続いているのだろうか。そのうち青梅街道沿いに中野坂上あたりまでビル、ビル、ビルだらけになってしまいます。武蔵野の香りがほのかに残り、浄水場の広場と東京ガスの丸いタンクしかなく、あとはしもたやしかなかつた西新宿はもはや幻以外の何ものでもない。都庁が来てから西新宿はおかしくなつた。

これだけ異様な建物である都庁舎が今や高層ビル街の風景の中に同化する程になつた。にわかカメラマンは絶好の被写体と都庁舎を撮りまくる。観光客は都庁の「立派な」風ぼうに感嘆する。けれど、こん

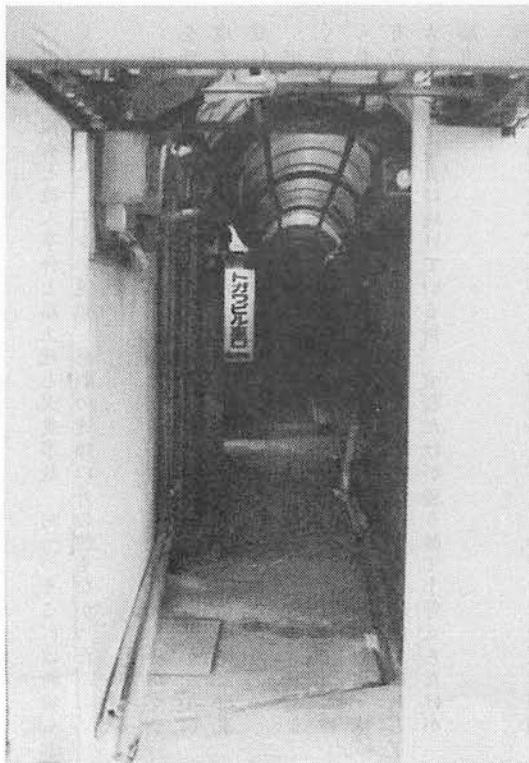
な建物どこが良いのかね。都庁舎ができ上がった頃見物に来た事があつたが、歩いているだけで頭がおかしくなり吐き気がした事を思い出す。周りのビルのおかげでそれも少しは緩和されたとはいえ、こんな建物を终生見続けなければならぬかと思うと暗い気分に苛まれる。見たくなくとも見えてしまうのは悲劇である。

西口再開発の土を利用して造成したと言われる中央公園へと足を伸ばす。中央公園に入ればふらり散歩どころではなく、いつの間にかバトロールと化す。テント小屋の人々はどこか不安氣で疲れ気味だ。爆弾、火災、小さな事件、と立て続けに物事が起り不安を感じているというだけではなく、そもそもこの地においても先がない事を自ずと自覚させられてしまつたからである。そんな風が吹いているからである。

慰めようにも、不安を取り除こうにもその言葉が見つからない。これは苦しい。

爆弾事件の現場にも足を運ぶ。奇跡にも命をとりとめたおっちゃんが一人で犠牲を背負つてくれたと思うしかない。けれども手足をもがれたその悲痛を思うと、これまで言葉がない。何故?という問いに何も答えず不安な風だけをまき散らしせせら笑う相手の解らない敵。もはや天を仰ぐだけだ。が、ここにはその空もない。事件という事実は事実として究明されるのであろうが、それがもたらした風は、誰が責任を負うと言うのだろうか。何も解らない、どうかしてしまいそうである。それが何かの明示ならば、誰かそう言つてくれ!

貧しき人々の不安やおののきの伝染はひたすら早く、ひたすら強い。そつとしてもらいたいものが、そつとしてもおけないとなると、もはや絶望的になる。そうやつて悲劇は二乗にも、三乗にもなり、いざれ取り返しのつかない事態へと進展する。不吉にもそういう事を経験してきたのが西新宿の貧者の歴史である。あらゆる理屈はそこにはない。



中央公園を抜け、西新宿八丁目に出て。成子神社にてお参り。神頼みという民衆の心情は良く解る。ただ祈るしかない時には他には何も出来ないのである。

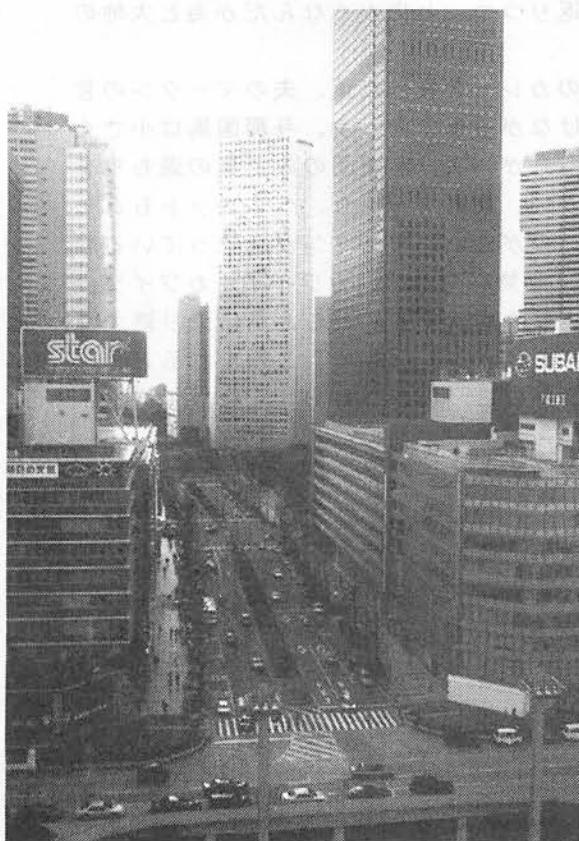
かつての西新宿の面影はそこらそこらの辺角に残る。とげとげしさも、苛立ちも急にどこかへ消える。ここには新宿が有ると思える。こんな街であつたのだ新宿は。それを壊し、貧者を放り投げ、富者や都府に土地を売り払つたところから、統べての悲劇は始まつた。そう思えてならない。「街作り」とか言いながら決してまともな街を作らない東京の再開発は、何も創造する事なくただ破壊し、放り出し、後は知らん顔ですまし顔をし続けている。何もない所を再開発するのならまだしも、人が生き、人が暮らした街を、人の生活まるごと追い払つてしまつたのが、西新宿の開発の歴史であった。この地の怨靈はもしかしたらそこから始まつたのかも知れない。

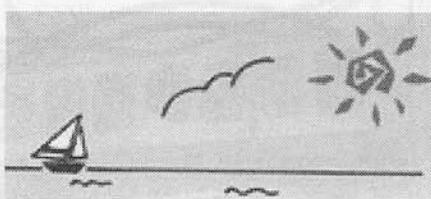
常円寺一帯は格好の土地なれども再開発から免れ、新宿らしさを



残している。鳴り物入りで出店されたT-ZONEなるパソコンショップも見事に潰れた。街に似合わないものはどんどんと淘汰していく。そこには都府の威信もないし、利害関係もない。西新宿と南新宿は開発ラッシュとなるが、北新宿の開発を見事に止めているのがこの一帯からである。時代の趨勢という意味不明な言い訳など通用せず、生まれて、生きて、死んでという生活のサイクルが街に染みついてしまえば、錯びれようが何だろうが街は生き抜ける。雲の合間から夕日の光が射し、街の暖かさに心が安まる。

風がそこへと吹き抜けるならば良いと思う。





おきなわ旅日記

～馬～

恩田美代子

与那国島の小さな民宿で朝食をとった後、一人比川浜へ向かう。ドライバーに道を訪ねると、車に同乗させ観光案内までしてくれる。この島の住民の一割は内地（本州）から来ていると聞き、びっくりする。以前旅した北海道の礼文島と景色が似ている。どちらの島も果てのせいなのか。海沿いの道には、放牧されている馬がいる。

誰も居ない比川の砂浜と、吸い込まれそうな青い海。三月の沖縄の海はまだ冷たいが、これを見たら泳がずにいられない。落ちている貝を拾い、耳にあてる波の音が聞こえる。民宿への帰り道、カタブル浜で再び泳ぐ。途中、舗装されていない道がありホツとする。この島、舗装道路と護岸工事がやたら多いのだ。行政から補助金を受けるための策なのだろうか？歩いて来た道を振り返りつつ、とにかくなんだか海と大地の大きさを感じる。

夕方、ユキさんの食堂で名物のカレーを食べた後、夫のマークンの営む馬広場へ砂糖きび畑を通り抜けながら車で向かう。与那国馬は小さく乗りやすい。最初は鞍つきで乗ったが、次は座布団のみで馬の温もりを感じながら乗る。馬ってあったかい。乗馬ブーツも、ヘルメットもムチも無く、馬と人との隔たりが無いのが良い。マークンが、乗っている間は、馬とお話して下さいと言う。「動物に対して、カワイイ、カワイソウと擬人化するのは間違っている、動物虐待です」とも。馬に乗り終えたら必ず、馬にお礼の意味をこめてブラッシングして、と頼まれる。そんなに長い時間を共にした訳ではないのに、馬がいとおしくなってくるから不思議だ。

馬広場で知り合った女性が、夜のスキューバダイビングに出掛けるが一緒に船に乗らないかと誘ってくる。船に乗るだけなら無料と言うので快諾するが、民宿のおばあが「以前、夜釣りで行方不明になった人が居るから危険」と猛反対てくる。結局、マークンとユキさんが間にはいり、「安全だから大丈夫」とおばあをなだめ、同宿の女子学生達と出掛けれる。内地から移住したマークンとユキさんが、島の人達に信頼されているのに、この頃から気付き始める。

夜の船は現実味が無く、星がたくさん見え、夢の中で浮いている気持ちになる。が、次第に船酔いが……。

意見広告

ホームレス救済と国家財政再建のために

失業者・ホームレスの急増は政治と政治家の責任です。
命がけ、財産がけの国会議員が誕生することを期待します。
次回の国政選挙（衆議院と参議院）に向けて、
ホームレスの代表を国会に送る準備をしましょう。
ボランティアの皆様へ、
賛同される方は1人1万円を下記へカンパして下さい。

郵便振替口座 00160-6-190947 「ろじゅく編集室」

*「五渕提案に賛同」と記載の事

財務大臣にお願いします。

「平成13年分 所得税の確定申告の手引一確定申告書A-24ページ」
(16) 寄付金控除の項目によると、

国や地方公共団体一略一への寄付金が可能であることが記載されています。

国へ寄付する方法、窓口を明らかにして下さい。

日本人の中にも、国を愛する国民がいます。

政府は国民に頭を下げて「寄付」を乞うべきです。

五渕四郎 2002.2.1

不許複製

路上文芸総合雑誌「露宿(ROJUKU)」第17号2002年3月1日発行(隔月刊)
〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13 ろじゅく編集室

はり師いが丸の

➤ 肝心かなめ



はり師いが丸



年末、墨田の叔父が他界した。

戦争ではフィリピンに行った。敗戦後、どんな姿で帰ってくるかと待ちわびた家族の心配をよそに、捕虜になった叔父は食うものには困らず、太って帰ってきた。

上京し、下町のプレス職人になった。亀戸・日暮里間を走るバスで山谷を通り抜け、毎日三ノ輪の職場まで通った。労災で左手首を失ったが、71歳まで働き続けた。

叔父は祖母の連れ子だった。「おまえのばあさんはなんにもしなかった。」奔放でだらしなかった祖母を、叔父が憎んでいた理由は知らない。祖母が死んだ後でも、叔父は祖母をよく言わなかった。叔父は私の曾祖母にあたる人に育てられた。私はその曾祖母の名前をもらつたらしい。

ただのひとりの男の人生の一部分として戦争を語ってくれる人も、のちに私が生まれ育った家の確執を教えてくれた人も、私にはこの叔父しかいなかつた。

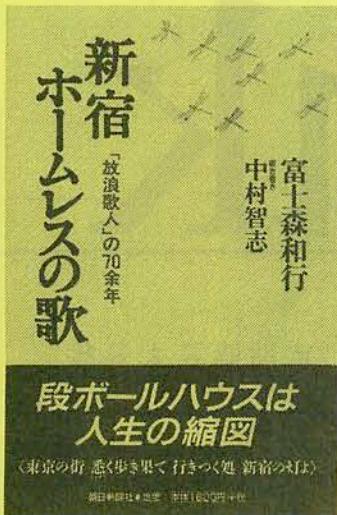
私は好んで叔父の元に出掛けたが、いつも緊張していた。これから行くと電話をする時、偏屈で頑固者の叔父でなく、世話を好きの叔母が出てくれることをいつも祈つた。機嫌のいい時にべらんめえ口調で話してくれる昔話や、今の世の中どうなつちまつてゐるんだという憂いに、私は喜んで耳を傾けた。体調が悪いと聞いて訪れた時、見舞われたことが気に入らなかつたらしく、一瞥されただけで家に上げてもらえなかつたこともあるが、そんな彼らしさがうれしくて、私は笑つて追い返された。血圧が高いこともあり、いつも冷やっこには醤油はかけないと断言しながら食べていた叔父を真似て、私もやっこに醤油をかけなくなつた。私が、鯛焼きは頭から食べる主義を生涯貫こうと決意したのは、「頭から食うもんに決まつてゐるだろ！」という彼の強い賛同を得た時である。

叔父がもうだめらしいという連絡を受けた年の暮れ、病院へ向かった。

病室には叔母がおらず、管をつながれた叔父がひとりで寝ていた。「おじさん、來たよ」と言った時、もう意識がないと聞いていた叔父が唸つた。片目が開いているのを見た瞬間、「何しに來た」と怒鳴られると身構えたが、しばらく後に部屋に戻った叔母に「もうわかっていないのよ」と言われた。親戚も集まりつつあった。「もう俺は死ぬだけなんだから、とっとと帰れ」と、今にも怒り出すような気がしてひやひやしていた。待つだけの時間が耐えがたく、「おじさん、ありがとう。かっこよかったよ」と言って病院を後にした。

通夜の夜、初めて気持ちを緩ませて叔父の家へ向かう電車に乗つた。

頑固者がまたひとり逝つてしまい、世の中はまたひとつ、退屈なものになつた。



富士森和行さんの「自叙伝」が出版されました。
『新宿ホームレスの歌～「放浪歌人」の70余年』(朝日新聞社・定価1600円)

「露宿」でもお馴染の富士森和行さんの短歌を随所にちりばめ、富士森さんの70余年の人生を朝日新聞社の中村智志さんが書き下ろした大作です。

戦前、戦中、戦後を東京の地で生き抜いて来た一人の男が、都市の底辺をさ迷い、新宿の路上へたどり着き、そこで感じたものは…。

普通の生活とは何か？生きるとは何か？その答えを探し続けている人には必読の書。かつてどこにも書かれた事のない一人の男の物語がここにあります。

(か)

[露宿定期購読の御案内]

路上文芸総合雑誌「露宿」はもちろん全国の本屋では売っていません。毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読8回分 5000円（郵送費込み）

定期購読4回分 2500円（郵送費込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。一冊送料込みで660円となります。その場合は御面倒でも継続購読を連絡して下さい。

申し込み方法

郵便振替用紙(00160-6-190947ろじゅく編集室)に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい(発行ごとに郵送します)。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円(いずれも送料込み)となります。

編集後記

「冷えた街 春を求めて 徒歩う日

雪はらはらと 桜に見えて」

幼い頃、舞い散る桜を見て、「雪が降ってるー」と叫んだそうなー。時は過ぎ、雪合戦よりは花見酒などとのたまうようになってしまい……。ついでに本年厄年を迎ってしまいました。そんなこともなんのその、富士森さんの「春の鼓動」のタイトルに胸ときめかせ、耳澄ます二月です。何が聞こえてくるのかなー?ではまた! (お)

次号18号は5月1日発行予定。

原稿締切りは4月1日必着にてお願いします。

露宿ペン俱楽部短信

投稿者で愛読者でもあった安田さんが年末アパートの一室で急死。まるで思いがけなかった訃報に愕然としております。無念追悼…

新宿中央公園や東村山で凄惨な事件が相次いでいます。狂った冬に凍えながら、それでも春を待ち望みましょう。

人々の想像力を刺激するような生きた作品を!引き続き投稿をお待ちしております。

露宿バックナンバー有ります。

露宿バックナンバーは創刊号、3号、5号、6号、7号、8号、9号、10号、11号、12号、13号、14号、15号、16号の在庫があります(2号、4号は売切れです)。限定1000部発行の印刷物ですのでお求めはお早めに。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。

Rojuk

定期購読大募集

♪露宿を置いて下さるお店・スペースを探しています。お気持ちのある方はぜひご連絡下さい。まとめ買いの場合は、とてもお安くなります。

♪露宿では広告を募集しています。又、投稿お便り、大歓迎です。下記住所のほか、「ろじゅく編集室専用ファックス」03-3981-6746がございます。「露宿」の注文・原稿送付・広告申込・お便り等、何にでもお気軽にご利用下さい。

「ろじゅく」

この雑誌は、路上生活者の方達が読み、書き、表現をする場を提供する為、つくられました。一冊でも多く雑誌を印刷し、路上生活者の方に手渡したい思いと、利益が出れば炊き出しのお米代にしたい為、心苦しい限りですが、多くの方のご理解とご支援をお願い致します。皆さんのお気持ちに届く、熱く丁寧な雑誌づくりを目指します。

購読費・スポンサー費送り先
郵便振替口座
00160-6-190947
「ろじゅく編集室」

露宿 ROJUKUはココで買えます。

◆**模索舎** 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 ◆**TACO ché** 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 ◆**スペースかぼす** 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 ◆**新宿中央公園ポケットパーク** (毎日曜午後6時から8時まで) TEL 090-3818-3450 ◆**城西教会** 東京都渋谷区西原1-19-3 TEL 03-3466-0445 ◆**山谷労働者福祉会館** 東京都台東区日本堤1-25-11 TEL/FAX 03-3876-7073 ◆**石手寺** 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870 ◆**ぐりん・びいす** 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿(ROJUKU)」第17号 2002年3月1日発行(隔月刊)

主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13
TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450(笠井)
Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>
郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」
販売協力・新宿連絡会、露宿ペン俱楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー